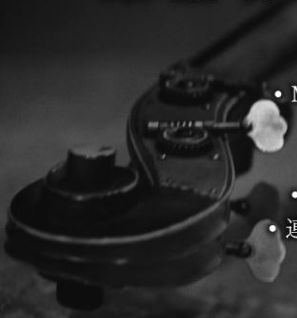


プロクオリティのスコアを
手軽に実現！
楽譜作成ソフトの新スタンダード

- 
- 簡単操作でこだわりの楽譜作成！
 - MIDIファイルからオリジナル楽譜の生成に対応！
 - MIDIイベントの挿入機能！
 - リアルタイムレコーディング機能！
 - 楽譜データをイメージファイルとして保存可能！
 - 連符や連桁をさまざまな形式で設定・演奏可能！
 - オシア譜を挿入可能！
 - タブ譜・ドラム譜の入力に対応！

MUSIC SCORE

ミュージックスコアプロ2

Creation and Editing of Score Software

PRO 2

Vista™ 対応版

取扱説明書

目次

Music Score Pro2 の主な機能.....	7
Music Score Pro2 を使うには.....	8
1. Music Score Pro2 の動作環境	8
2. Music Score Pro2 のインストール	8
3. Music Score Pro2 のアンインストール	11
4. MIDI 機器のセットアップ	12
5. MIDI 環境設定	13
簡単な楽譜を作る.....	14
1. 新しいファイルを作る.....	14
2. 音符入力と編集.....	14
3. 譜表・小節削除	16
4. 楽譜の演奏	17
5. プリンタドライバの確認.....	18
6. 印刷の準備	18
7. データの保存	18
◆メインウィンドウ	19
各部名称	19
譜表の見方	20
譜面上での操作	20
◆標準ツールバー	22
ファイル編集ボタン(詳細は69ページ以降).....	22
ポインタボタン	22
演奏ボタン	23
補助ウィンドウボタン	23
◆入力ツールバー	27
「ラッチボタン  」.....	27
「音部記号  」.....	27
<譜表の音部記号を変更するには>	28
<ドラム譜を設定するには>	28
<タブ譜を設定するには>	32
「音符  」.....	34
<音符を入力するには>	34
<休符を入力するには>	34

<連符を入力するには>	35
<既に入力してある音符を連符にする場合>	35
<臨時記号を入力するには>	36
<MIDI キーボードを用いた楽譜入力>	38
「アーティキュレーション  」	39
<アーティキュレーション記号を音符の上に表記するには>	39
<アーティキュレーション記号を音符の下に表記するには>	39
<複数の音符に同時にアーティキュレーション記号を付けるには>	39
<アーティキュレーション記号を任意の位置に表記するには>	40
<アルペジオを表記するには>	40
「オーナメント  」	40
「強弱記号  」	41
「繰り返し記号  」	42
「ツールボックス  」	45
<タイを入力するには>	45
<スラーを入力するには>	45
<オクターブ記号を入力するには>	45
<フルペダル記号、ハーフペダル記号の入力>	46
「MIDI イベント  」	46
「タブ譜入力パレット  」	49
「図形  」	49
<任意の記号を入力するには>	50
「カラー  」	53
「小節テキスト  」	54
「ページテキスト  」	54
「歌詞  」	55
「テンポ記号  」	56
「コードネームの選択  」	57
<コードネームの定義>	57
<コードネームの選択ウィンドウ>	58
<コードネームを入力するには>	59
<コードネームのフォントを変えるには>	59
<コードネームを編集するには>	60
「リズムの選択  」	61
「発想標語の選択  」	63

「歌詞の編集」 	63
「音程録音」 	64
◆書式バー	66
◆ステータスバー	66
◆コントロールパネル	67
◆メニューバー	69
1. ファイルメニュー	69
新規作成	69
テンプレートから開く	71
開く	71
楽譜のマージ	72
閉じる	72
上書き保存	73
名前を付けて保存	73
イメージパラメータの設定	73
イメージとして保存	74
パート譜作成	74
ライブラリーの編集	75
<コードネームの編集>	75
<フレットボードの編集>	77
<リズムパターンの作成>	78
<ドラムマップ>	82
ヘッダー/フッター編集	84
楽譜情報	85
印刷用紙サイズに合わせる	86
プリンタの設定	86
印刷プレビュー	86
印刷	87
最近使ったファイル	88
終了	88
2. 編集メニュー	89
3. 表示メニュー	90
4. 音符メニュー	91
音符属性変更	91
音符のサイズ	92

臨時記号	92
符尾の向き	92
ボイス移動	93
タイ	93
スラー	93
連桁	93
移調	95
音価変更	95
連符設定	96
ベロシティー変更	96
上の譜表に表示	97
下の譜表に表示	97
和音に変換	98
装飾音に変換	98
微調整	99
5. 小節メニュー	99
小節挿入	99
小節削除	100
ブロックの小節数を増やす	100
ブロックの小節数を減らす	101
拍子変更	102
<拍子を変更するには>	103
<混合拍子を設定するには>	103
<拍子を記号で表示するには>	104
調号変更	104
小節番号	105
休符省略/解除	105
テンポ変更	107
小節表示属性	107
スペーシング	108
6. 楽譜メニュー	109
譜表挿入	109
譜表削除	111
スプリット・ノート	111
譜表属性	113
譜表連結/解除	114

譜表を隠す	115
譜表の表示	115
ページ挿入	115
ページ削除	116
オシア	116
楽譜ページレイアウト	117
編成	119
7. 設定メニュー	120
MIDI 入出力ポート設定	120
MIDI ファイル読み込み/録音設定	121
メトロノーム音設定	122
ファイル設定	122
表示	122
ボイス	124
カラー	125
フォント	126
タイ/スラー	127
間隔	127
楽譜の規格	129
演奏設定	130
大譜表括弧	131
録音時メトロノーム音出し	132
プレイバックフォロー	132
自動伴奏をする	132
リピート演奏	132
連桁の自動連結	132
自動間隔調整	132
編集音を出す	132
エラーを表示する	133
8. ウィンドウメニュー	133
重ねて表示	133
並べて表示	133
アイコンの整列	133
すべて閉じる	133
9. ヘルプメニュー	134
目次	134
Music Score Pro2 について	134

ホームページ	134
付記	135
ショートカットキー対応表	135
ファイルメニュー	135
編集メニュー	135
表示メニュー	135
音符メニュー	137
小節メニュー	138
楽譜メニュー	138
設定メニュー	139
ヘルプ	139
マウスポインタ	139
演奏	139
キーボードとマウスを同時に利用した機能	140
索引	141

MUSIC SCORE PRO2 の主な機能

- 楽譜ファイルをJPG,TIF,BMP,GIF形式のイメージファイルに保存可能。
- 編集操作に対して32回分の操作を戻すことが可能。
- 混在拍子の設定も可能。
- 調号の変更時に、コードネームの移調も可能。
- テキストの編集でUnicodeに対応。
- イメージファイルを含む任意記号の挿入可能。
- 最大で8節までの歌詞入力が可能。
- 小節線、譜表の位置移動が可能。
- オシア譜による、いろいろな形態の譜表挿入が可能。
- 譜表ごとにサイズを変更可能。
- スタンダードMIDIファイルの読み込み、保存が可能。
- Encoreにて作成したデータの読み込みに対応。
- マウスでの音符入力時に、自然なスペーシングを実現。

MUSIC SCORE PRO2 を使うには

1. MUSIC SCORE PRO2 の動作環境

OS: Microsoft Windows 2000/XP/Vista ※Vista は 32bit 版のみ動作可能

CPU: OS が正常に動作する CPU

メモリ: OS が正常に動作するメモリ量

ハードディスク: 20MB 以上の空き容量

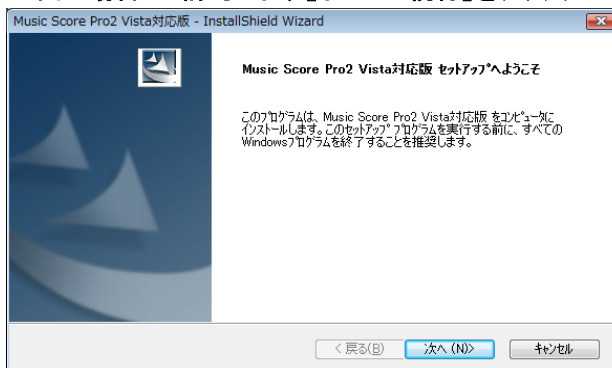
画面解像度: 800×600 以上

色: HighColor以上

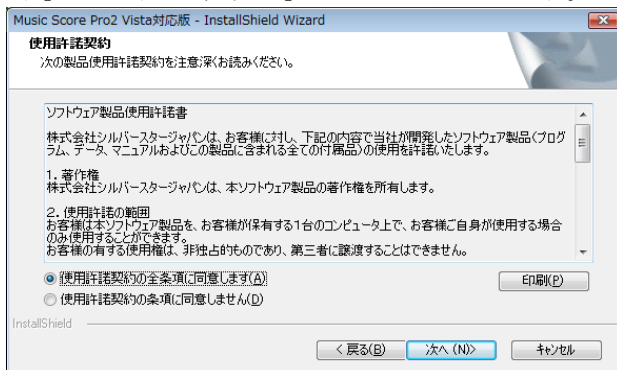
その他: CD-ROMドライブ、サウンドカードあるいは MIDI 音源 (MIDI 録音／再生時)、MIDI インターフェース(必要な場合)、マイク(音程録音時)、プリンタ(印刷時)

2. MUSIC SCORE PRO2 のインストール

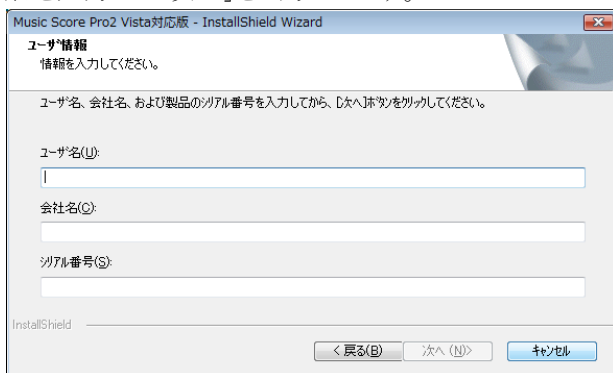
1. Music Score Pro2のCDをCD-ROMドライブに挿入します。
2. CD-ROMの「setup.exe」をダブルクリックすると、以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックして、画面の指示に従ってインストールを進めてください。
警告表示が出た場合は「許可します」または「続行」をクリックしてください。



3. 「同意します」を選択すると、「次へ」がクリック可能になります。

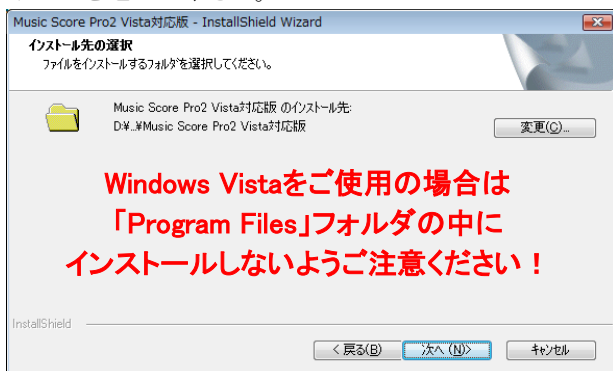


4. 必要な項目を入力して「次へ」をクリックします。



※シリアル番号はユーザー登録ハガキに記載されています。

5. インストール先を指定します。特に必要でない限りは、このまま「次へ」をクリックしてインストールを進めて下さい。



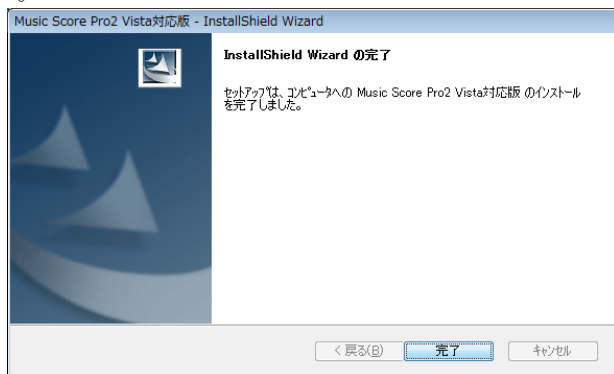
Windows VistaとWindows XPでは表示されるインストール先が異なります。

- Windows Vistaにインストールする場合
「C:¥シルバースタージャパン¥Music Score Pro2 Vista対応版」
- Windows XPにインストールする場合
「C:¥Program Files¥シルバースタージャパン¥Music Score Pro2 Vista対応版」

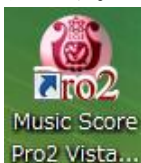
6. 「インストール」をクリックすると、プログラム本体のインストールが始まります。



7. 「完了」をクリックするとインストールが終了します。ドライブよりディスクを取り出してください。



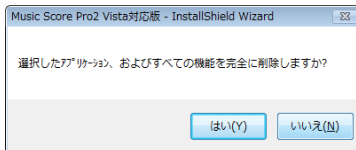
8. デスクトップに以下のアイコンが追加されますので、このアイコンをダブルクリックして「Music Score Pro2」を起動します。



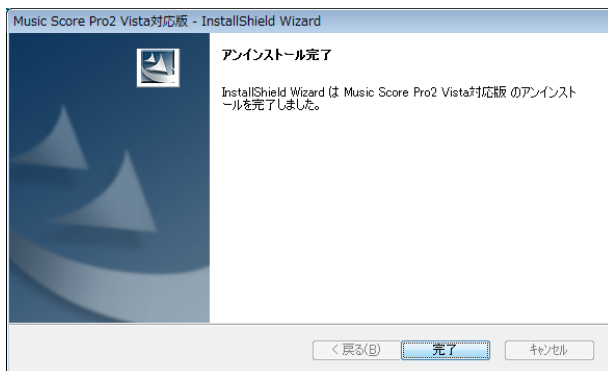
3. MUSIC SCORE PRO2 のアンインストール

1. Music Score Pro2のCDをCD-ROMドライブに挿入します。

2. CD-ROMの「setup.exe」をダブルクリックすると、右の画面が表示されます。「はい」をクリックすると、パソコンよりMusic Score Pro2が削除されます。



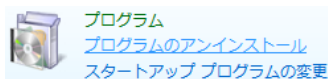
3. 「完了」をクリックするとアンインストールが終了します。ドライブよりディスクを取り出してください。



※「プログラムのアンインストール」からも、アンインストール作業を行えます。

● Windows Vistaの場合

「コントロールパネル」の中の「プログラムのアンインストール」をクリックします。

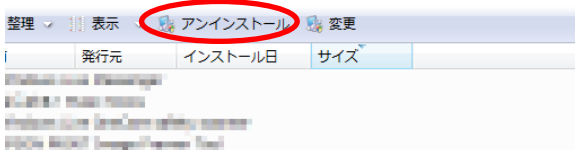


パソコンにインストールされているプログラム

の一覧が表示されますので、その中から「Music Score Pro2 Vista対応版」を選択して「アンインストール」をクリックしてください。

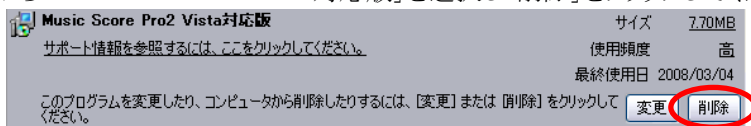
[プログラムのアンインストールまたは変更](#)

プログラムをアンインストールするには、一覧からプログラムを選択して【アンインストール】【変更】、または【修復】をクリックします。



- Windows XPの場合

「コントロールパネル」の中の「プログラムの追加と削除」をクリックします。パソコンにインストールされているプログラムの一覧が表示されますので、その中から「Music Score Pro2 Vista対応版」を選択し「削除」をクリックしてください。

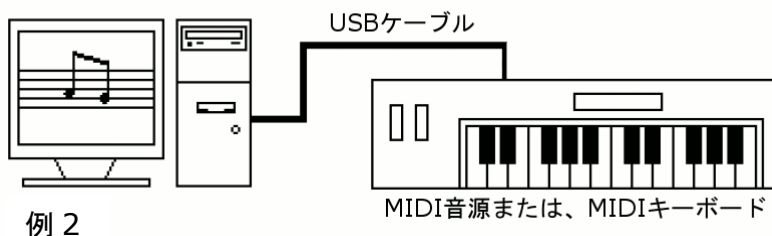
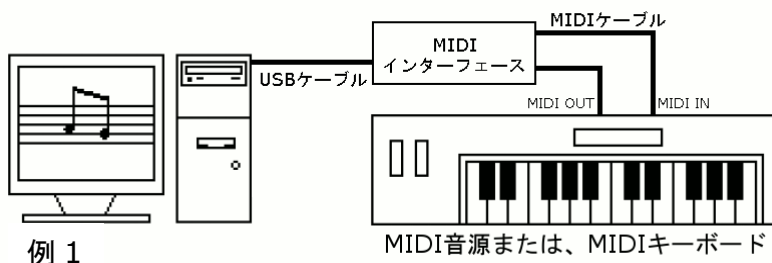


4. MIDI 機器のセットアップ

Music Score Pro2はMIDI音源を利用して、入力した譜面をパソコンで演奏することができます。MIDI音源には、Windowsに内蔵されているものの他に、外部接続タイプのももあります。

以下に示すのは、外部接続タイプのMIDI音源とパソコンとの繋ぎ方です。内蔵タイプの音源を使用される場合は、次項の「MIDI環境設定」へ読み進めて下さい。

<外部MIDI音源の接続方法>



外部 MIDI 音源を使用する場合は、MIDI インターフェースを経由してパソコンと接続する方法(例1)と、パソコンと直接 USB ケーブルで接続する方法(例2)の2種類があります。どちらの方法で接続するかは、お手持ちの MIDI 機器によって異なりますので、それぞれの機器に付属のマニュアルをご参照ください。

5. MIDI 環境設定

入力した楽譜を演奏するためにはMIDI環境設定をする必要があります。サウンドカードやMIDI音源から音が出ない場合、また使用するMIDIデバイスを変更したいときは、「設定」メニューから「MIDI入出力ポート設定」を選択し、出力用、入力用のMIDIデバイスを設定します。

Windowsには標準で「Microsoft GS Wave (SW) Synth」というMIDI音源が搭載されており、Music Score Pro2では初期状態において、このMIDI音源を使用してデータを演奏します。



MIDIインターフェースなどのMIDI機器を増設した際には、入・出力ポートにそれに応じた機器表示が追加されます。

簡単な楽譜を作る

それでは早速、次のような楽譜を作ってみましょう。



1. 新しいファイルを作る

「Music Score Pro2」を起動すると、「2段組みの五線譜が5ブロック」ある空白の楽譜が表示されています。

2. 音符入力と編集

それでは早速、この譜表に音符を入力してみましょう。



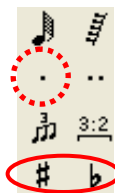
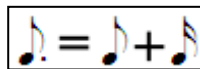
まず、マウスで音符入力パレットの4分音符をクリックします。

この状態で譜面上にマウスポインタを移動させると、ポインタが4分音符の形に変わります。



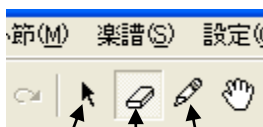
ポインタを1小節目の「ソ」(上図の位置)に合わせて、マウスをクリックします。これで五線譜上に音符が配置されました。以降の音符や休符も音符入力パレットより適時選択しながら、同じ要領で入力していきます。

1小節目の左から3つ目の音符は、右肩に点がついています。この点は「符点」と呼ばれるもので、該当する音符の長さを、元の長さから更にその半分伸ばしたいときに使います。



符点音符を入力するには、音符入力パレットで**対象の音符を選択した後に続けて**、左図の点線で囲まれた記号をクリックします。この状態で譜面上にマウスポインタを移動させると、符点の付いた音符を入力することができます。

次に、シャープ(#)とフラット(b)の入力方法を説明します。これらの記号は、**あらかじめ入力してある音符に対して後から付加する形で入力します**。音符入力パレットの下部にそれぞれの入力スイッチが用意されています。いずれかを選択した状態で、記号を付加したい音符の符頭をクリックしてください。



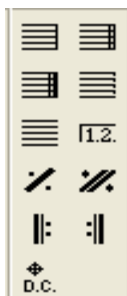
選択 消去 入力

入力した音符の位置を変更する場合は、ツールバーの「選択ボタン」をクリックします。次に対象の音符にマウスポインタを合わせると形が $\leftrightarrow$ に変化します。この状態でマウスをクリックしたまま動かすことで、音程や位置を変えることができます。

音符を削除するには「消去ボタン」を選択し、対象となる音符の符頭にマウスポインタを合わせてクリックします。



符頭にポインタを合わせると形が $\oplus$ に変わります。



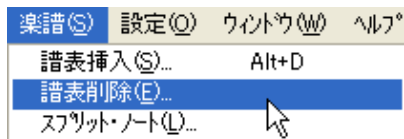
音符などがすべて入力できたら、4小節目の最後に終止線を入力します。ツールバーにある「繰り返し記号パレット」 のボタンをクリックします。すると、音符入力パレットの隣に新しくパレットが表示されますので、その中から  を選択してください。

譜面上にマウスポインタを持っていくと、終止線の形に変化するのでこの状態で4小節目の後ろの部分をクリックします。

3. 譜表・小節削除

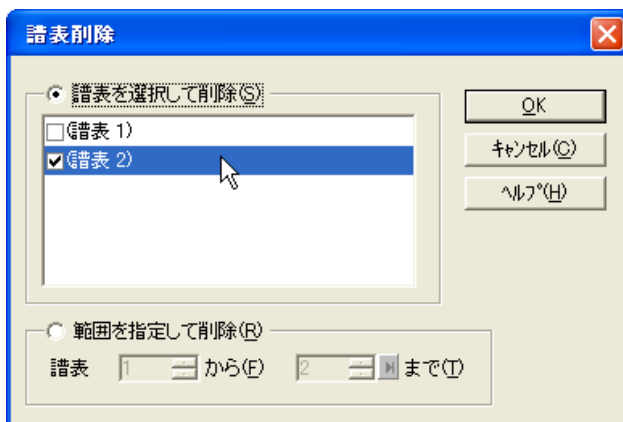
以上で入力は終わりです。お疲れ様でした。

最後に何も入力されていない譜表と小節を削除します。まずは譜表の削除から説明します。

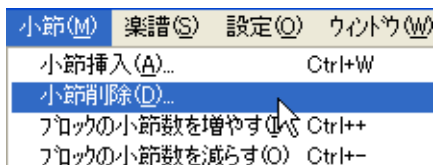


メニューバーより「楽譜」をクリックしその中から「譜表削除」を選択します。譜表削除ウィンドウが表示されますので、「譜表を選択して削除」を選択し、一覧より「譜表2」にチェックを入れてください。この状態で「OK」ボタンを

押すと、2段目の譜表を削除することができます。



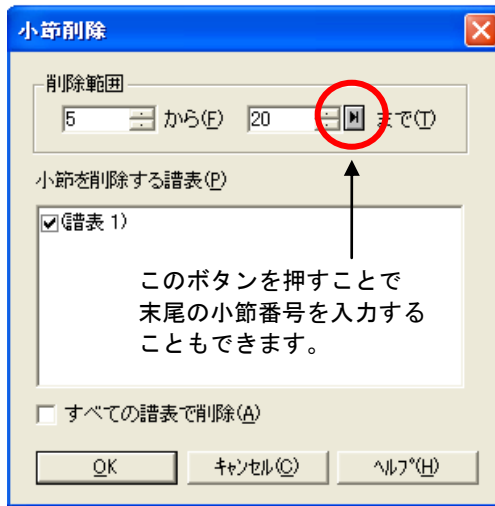
次に余分な小節を削除します。



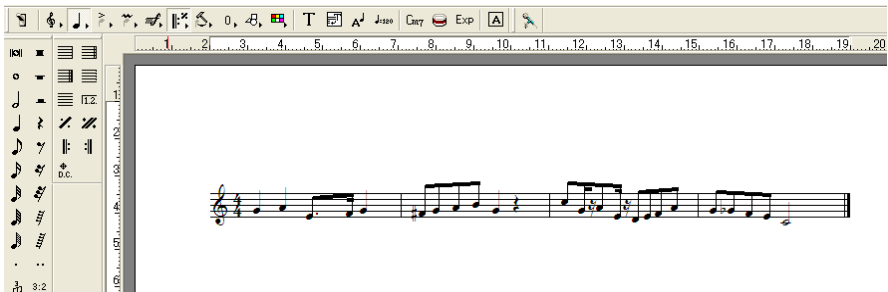
メニューバーより「小節」をクリックし、「小節削除」を選択します。

表示された小節削除ウィンドウで次ページの図のように設定してOKをクリックしてください。5小節目以降が空白なので、削除範囲の始まりには「5」を。それから末尾の20小節までを削除するので、終わりの欄には「20」を入力します。

5小節目以降が空白なので、削除範囲の始まりには「5」を。それから末尾の20小節までを削除するので、終わりの欄には「20」を入力します。



以上で、下図のような譜表が出来上がります。



4. 楽譜の演奏

楽譜の演奏はパソコンに内蔵された音源、または外部に接続した MIDI 機器を使って行います。ツールバーの「始めから演奏」ボタン  をクリックすると楽譜を最初から演奏します。「演奏」ボタン  をクリックするとカレット(小節内で点滅しているカーソル)のある小節から演奏が始まります。

5. プリントドライバの確認

パソコンで初めて印刷する方は、最初にプリントドライバが正しくインストールされていることを確認してください。プリントドライバのインストール方法については、プリンタ付属のマニュアルをご覧ください。

6. 印刷の準備

まずプリンタが正しく接続されていることを確認します。次に「ファイル」メニューの「印刷」をクリックします。[印刷]ダイアログボックスが表示されます。

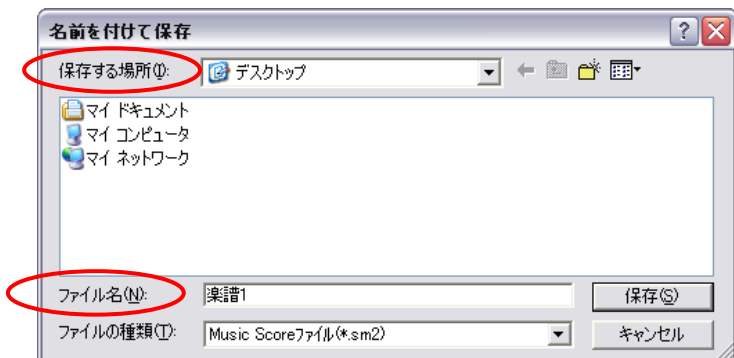


各項目を確認した後、「OK」ボタンをクリックすると印刷が始まります。

7. データの保存

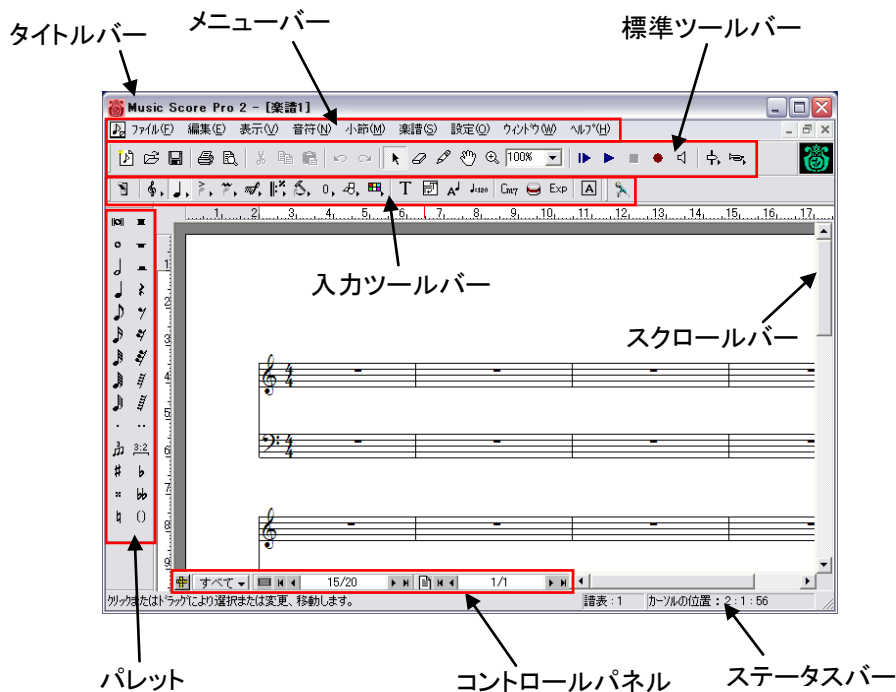
最後に、作成したデータを保存します。

メニューバーの「ファイル」をクリックして、「名前を付けて保存」を選択してください。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されますので、「保存する場所」と「ファイル名」を入力し「保存」をクリックします。

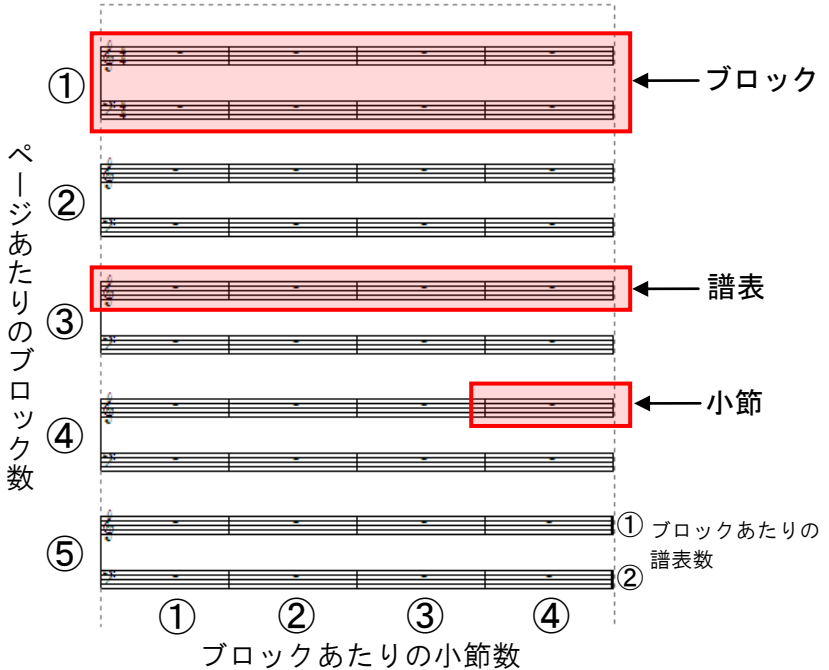


◆メインウィンドウ

各部名称



譜表の見方



譜面上での操作

下図の丸で示した部分にマウスポインタを合わせると、それぞれの場所に応じてポインタの形が変化します。



1. 譜表の左端

この位置にマウスポインタを合わせると、次の2種類の形にポインタが変化します。

- 音部記号のすぐ左



この位置では、ポインタが十字の矢印に変化します。この状態でマウスをクリックして上下左右にドラッグすることで、ブロックや譜表を移動させることができます。

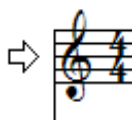
このポインタが変化した状態を「ハンドル」と呼びます。

二つ以上の譜表でブロックが構成されている場合、各ブロックにおける第1譜表のハンドルは、ブロックの位置を移動させる役割を持ち、第2譜表以降のハンドルは、それぞれの譜表を移動させる役割を持ちます。

「Ctrl」キーを押しながらブロックのハンドルをドラッグすると、それより下のブロックをまとめて移動できます。

「Ctrl」キーを押しながら譜表のハンドルをドラッグすると、それより下のブロックで同じ譜表をまとめて移動できます。

- 譜表のすぐ左



この位置では、ポインタが右向きの矢印に変化します。この状態でマウスをクリックすることで、そのブロックの譜表を選択状態にすることができます。また、ダブルクリックすると、すべてのブロックにおいて譜表を選択状態にすることができます。

2. 小節線の上

この位置にマウスポインタを合わせると、左右の矢印の形にポインタが変化します。

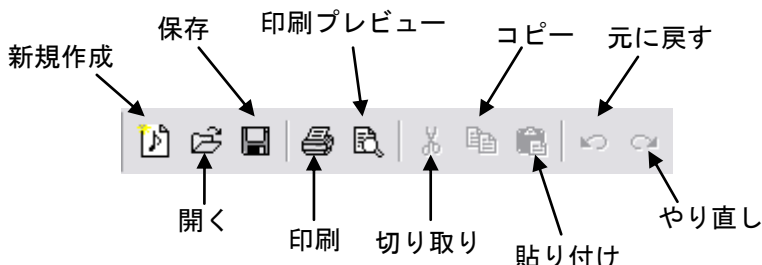


この状態でマウスをクリックして左右にドラッグすることで、小節線の位置を変更することができます。

小節をダブルクリックすることで、その小節全体を選択状態にすることができます。また、「Shift」キーを押しながら他の小節をダブルクリックすることで、複数の小節を選択可能です。

◆ 標準ツールバー

ファイル編集ボタン(詳細は69ページ以降)

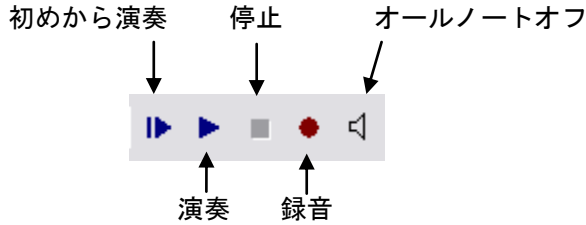


ポインタボタン



- 「選択ボタン」
このボタンをクリックするとマウスポインタが選択ツールに変わり、記号、譜表、音符などの選択、及びドラッグによる移動ができます。
- 「消去ボタン」
このボタンをクリックしてマウスポインタを消去したい音符、記号に重ねると、ポインタの形が変わります。この状態でマウスをクリックして音符等を削除できます。
- 「入力ボタン」
このボタンをクリックすると、譜面上でマウスポインタが選択した入力ツールの形に変わります。音符、記号を入力する際に使います。
- 「移動ボタン」
このボタンが押された状態で、譜面をクリックしたままマウスを動かすと、表示範囲を移動させることができます。
- 「拡大ボタン」
楽譜を拡大/縮小します。このボタンを押すと、マウスポインタが虫めがねの形に変わります。この状態で楽譜をクリックすると楽譜が拡大されます。Ctrlキーを押しながら楽譜をクリックすると、楽譜を縮小します。
- 「表示倍率」
楽譜の表示サイズを変更できます。

演奏ボタン



「始めから演奏」

現在編集集中の楽譜を最初から演奏します。

「演奏」

カレット(小節内で点滅しているカーソル)の置かれている小節から演奏します。

「停止」

演奏を停止します。

「録音」

録音を開始します。(MIDI キーボードを使用したリアルタイム入力)

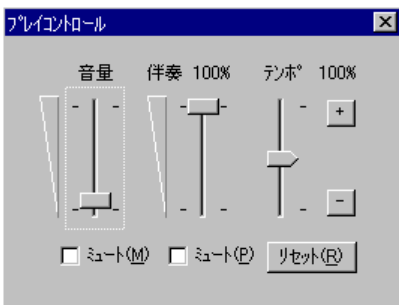
「オールノートオフ」

演奏を停止したのに音が鳴り止まない場合がまれにあります。このボタンはそのような場合に発音を停止させるために使用します。演奏中はグレーに表示されています。

補助ウィンドウボタン



● 「プレイコントロール」



演奏時の全体の音量、伴奏の音量、テンポを調節するウィンドウです。

「音量」：楽譜を演奏する際の、全体の音量を調節することができます。

「伴奏」：楽譜を演奏する際の、自動伴奏の音量を調節することができます。

「テンポ」：演奏の速さを調節することができます。

「+」：このボタンをクリックすると、テンポが早くなります。

「-」：このボタンをクリックすると、テンポが遅くなります。

「ミュート」：このボタンをチェックすると、音量がゼロになります。

「リセット」：このボタンをクリックすると、テンポがリセットされます。

- 「譜表設定」

譜表設定ウインドウでは、譜表ごとに MIDI チャンネルや使用する楽器を選択し音の高さや音量などを設定できます。また、譜表別の演奏や、ソロ演奏なども設定できます。

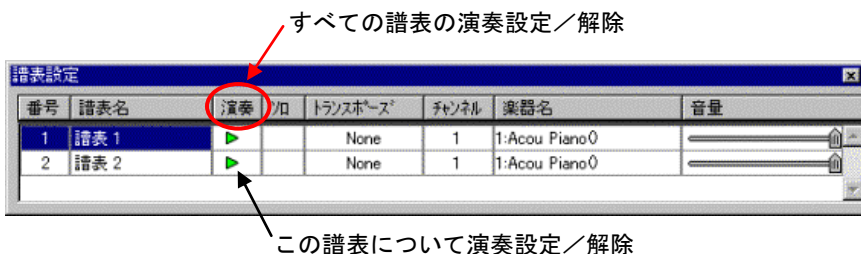


番号	譜表名	演奏	加	トランスポーズ	チャンネル	楽器名	音量
1	譜表 1	▶		None	1	1:Acou Piano0	
2	譜表 2	▶		None	1	1:Acou Piano0	

「番号」：この項目は譜表の順序を表します。ここをマウスで上下にドラッグすると、譜表の順序を変えることができます。

「譜表名」：この項目では譜表の名前を入力します。ここをクリックして譜表の名前を入力すると、楽譜内の譜表にその名前が表記されます。

「演奏」：この項目では演奏させたい譜表を選ぶことができます。譜表ごとに演奏マークをクリックして演奏するかどうかを選択でき、「演奏」項目ボタンをクリックするとすべての譜表にマークを設定できます。

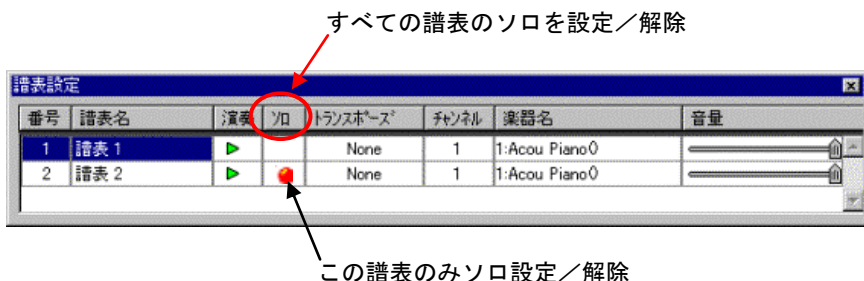


すべての譜表の演奏設定／解除

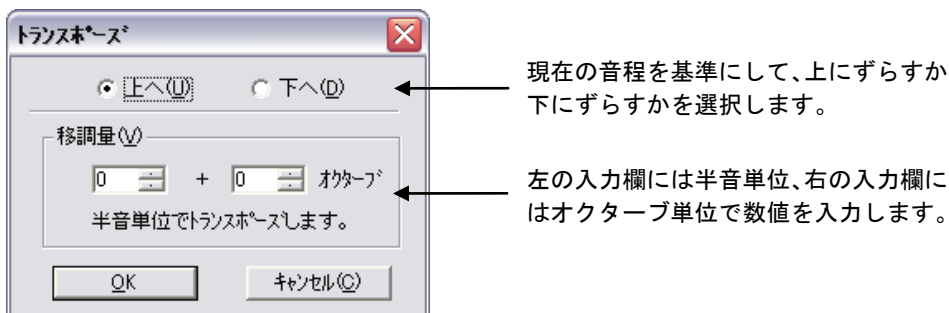
番号	譜表名	演奏	加	トランスポーズ	チャンネル	楽器名	音量
1	譜表 1	▶		None	1	1:Acou Piano0	
2	譜表 2	▶		None	1	1:Acou Piano0	

この譜表について演奏設定／解除

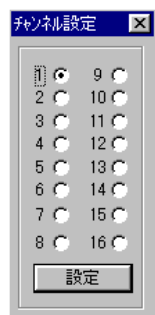
「ソロ」：この項目では、選んだ譜表だけ演奏させる(ソロ演奏)ことができます。任意の譜表にソロのチェックを入れると、他の譜表はミュート(無音)状態になります。「ソロ」項目ボタンをクリックすると、すべての譜表にマークを設定できます。



「トランスポーズ」：譜表単位で移調して演奏できます。この項目をマウスでクリックして表示される「トランスポーズ」ダイアログボックスで、譜表のピッチを変更できます。



「チャンネル」：譜表ごとに MIDI チャンネルを設定できます。ここをマウスでクリックすると、「チャンネル設定」ダイアログボックスが表示されます。



※注意事項

ひとつのチャンネルにつき、ひとつの音色を割り当てるができます。譜表ごとに異なった音色で演奏したい場合は、それぞれの譜表に個別のチャンネルを割り当てた上で、音色を変更してください。

「**楽器名**」： 譜表ごとの音色を選択します。ここをマウスでクリックすると、「楽器設定」ダイアログボックスが表示されます。

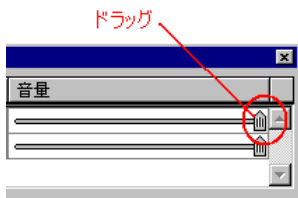


楽器番号を入力するか、リストより楽器名をクリックすることで音色を選択します。

 「音源名」の項目について。

MIDI 出力ポートに「Microsoft GS Wavetable (SW) Synth」を選択している場合は音源名に「GM」を選択してください。

「**音量**」： 譜表ごとの音量を調節できます。



 この音量は、再生中に変更しても即座には反映されません。一旦、演奏を停止した後にもう一度再生することで変更が反映されます。

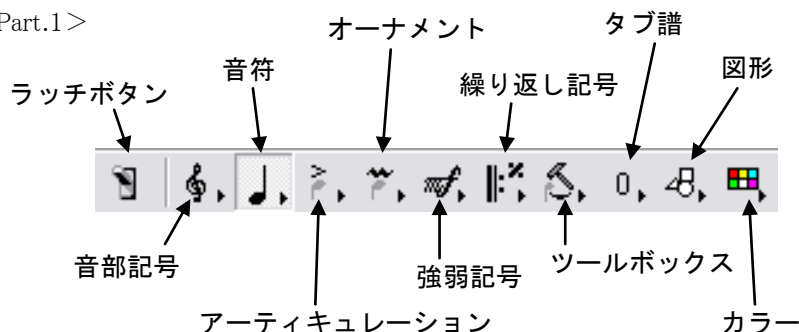
◆入力ツールバー



楽譜に入力する音符や記号、その他各種ツールボタンが入っています。入力ツールバーは Music Score Pro2 の起動時にメインウィンドウに表示されています。また「表示」メニューの「ツールウィンドウ」のサブメニューから「入力ツールバー」を選択しても表示されます。

各ツールボタンをクリックすると、それに該当する入力パレットが表示されます。(ラッチボタンを除く)。

<Part.1>



「ラッチボタン」

入力パレットをひとつずつ画面に表示するボタンです。画面を広く使うため、必要な入力パレットだけを表示させたいときに使用します。このボタンが選択されていない場合は、選択したすべての入力パレットが画面上に表示されます。

「音部記号」

音部記号を設定、変更するためのパレットです。入力ツールバーでこのボタンを選択するか、F3 キーを押すと「音部記号」入力パレットが表示されます。

トレブル(高音部)			ベース(低音部)
可変 C(中音部)			可変 C(中音部)
モダン・ピッコロ			モダン・テナー
8va バッサ			ドラム譜
タブ譜			

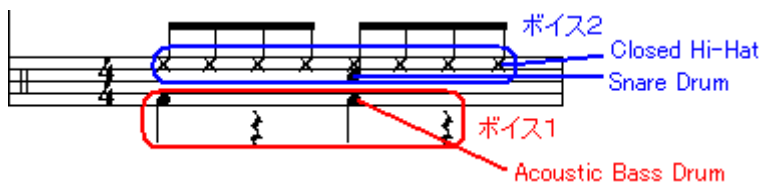
< 譜表の音部記号を変更するには >

1. パレットから必要な音部記号を選択します。
2. 次にマウスポインタを変更しようとする音部記号の上に置いてクリックします。
すると、元の音部記号が選択した音部記号に変わります。
3. 音部記号が変更されると、その位置から次の音部記号が設定されるまでの音符が移調されます。

< ドラム譜を設定するには >

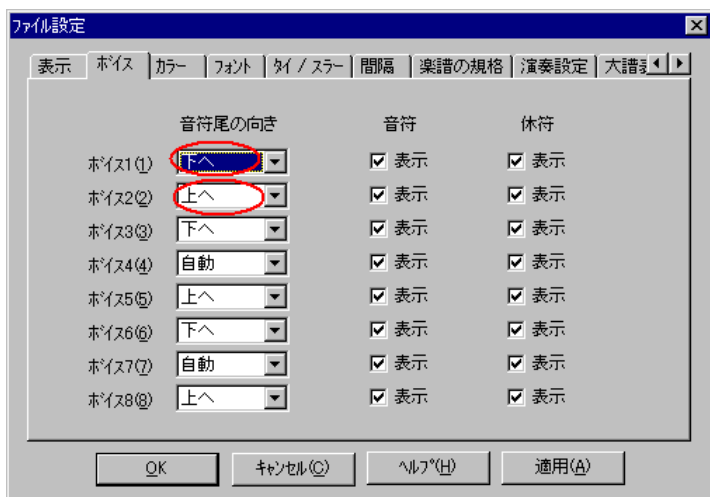
1. パレットからドラム譜記号を選択します。
2. ドラム譜に設定したい譜表の1小節目でマウスをクリックします。
 ドラム譜記号とタブ譜記号は、1小節目以外には設定できません。
3. すると「ドラムマップ」ダイアログボックスが表示されますので、ここでドラムの設定を行います。「OK」ボタンを押すと、該当する譜表がドラム譜に設定されます。

§ ドラム譜への入力 §



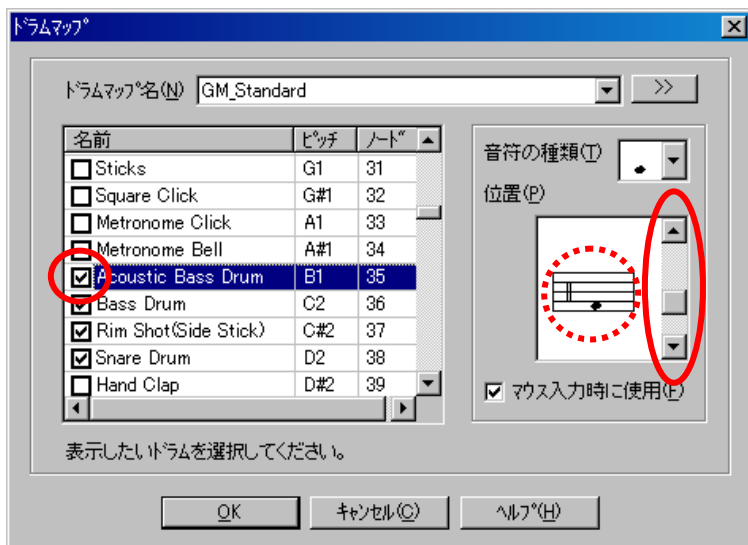
例として、上の図に示したようなドラム譜の作り方を説明します。

1. まず、「設定」メニューより「ファイル設定」を選択し、「ボイス」タブをクリックして、次ページのウィンドウを表示します。
2. 「音符尾の向き」を、ボイス1は「下に」、ボイス2は「上に」に設定し「OK」をクリックします。



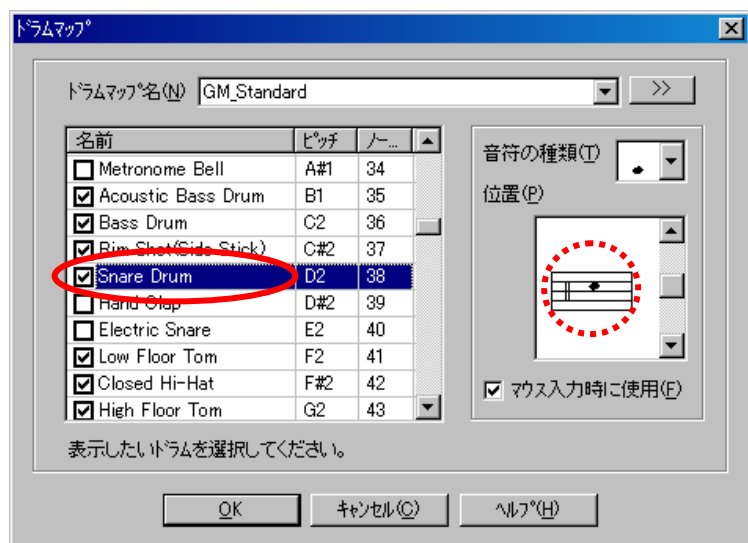
※「ボイス機能」については、後章にて解説します。

3. 次に、入力ツールバーから「音部記号」ボタン  を選択して「音部記号」入力パレットを表示します。ここからドラム譜記号ボタン  を選択し、ドラム譜にしようとする譜表の1小節目の音部記号をマウスでクリックします。「ドラムマップ」ダイアログボックスが表示されますので、ここで各部分の設定を行います。
4. 「Acoustic Bass Drum」の表記設定をします。
 - 「Acoustic Bass Drum」の横にあるボックスにチェックを入れます。
 - 次に、五線譜上のどの音階に「Acoustic Bass Drum」の音を割り振るかを設定します。「位置」ウィンドウ右側のスクロールバーで、割り振る音階を変更できます。次ページの図と同じ位置に設定してください。



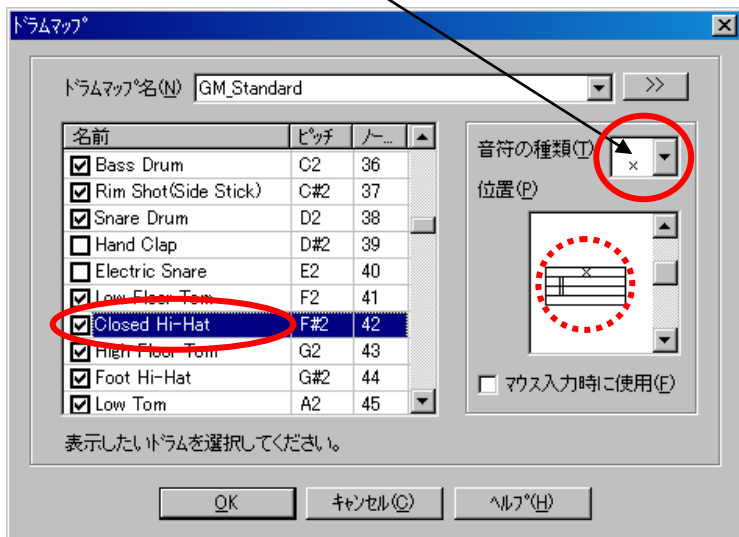
Acoustic Bass Drum の設定

5. 続いて「Snare Drum」の表記設定をします。
Acoustic Bass Drum の設定と同じ要領で行ってください。



Snare Drum の設定

6. 最後に「Closed Hi-Hat」の設定をします。
「Closed Hi-Hat」の場合、「音符の種類」を「x」に設定します。

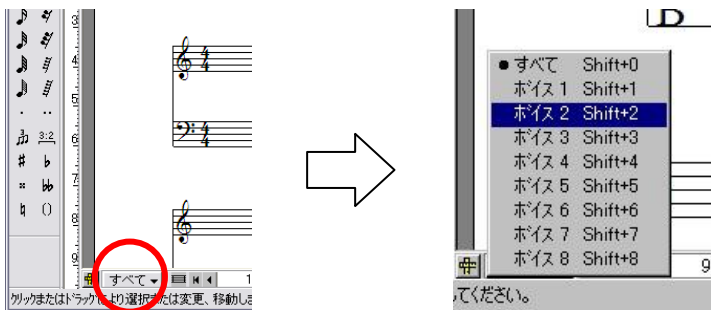


Closed Hi-Hat の設定

- すべての設定が完了したら「OK」をクリックします。
以上でドラムマップの設定は終了です。

7. ドラム譜に音符を入力します。

- 「Acoustic Bass Drum」を入力するときは「ボイス1」を選択し、「Snare Drum」及び「Closed Hi-Hat」を入力する時は「ボイス2」を選択した状態で行います。編集ウィンドウ左下の「ボイス設定」ボタンをクリックすることで表示されるメニューより、各ボイスを選択してください。（次ページの図を参照）
- すべての音符を入力し終わったら「ボイス設定」で「すべて」を選択し、「再生」ボタンをクリックしてください。「すべて」が選択されていない状態では、それぞれのボイスで入力された音符のみが再生されます。



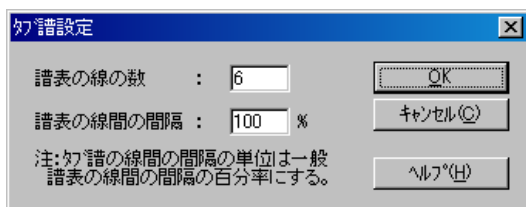
- ☑ 「ボイス設定」ボタンに「すべて」が表示されている状態では、入力される音符は「ボイス 1」として割り当てられます。
- ☑ 同一のボイスにて、異なる長さの音符が重なり合う楽譜を入力する時は、最も細かな音符(この場合は「Closed Hi-Hat」)から先に入力するとやり易いです。

より複雑なリズムを入力したい場合は、楽器ごとに個別のボイスを使用するとスムーズに行えます。

<タブ譜を設定するには>

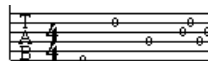
既存の譜表をタブ譜に変更する場合

1. まず、パレットからタブ譜記号を選択します。
2. タブ譜に設定したい譜表の1小節目でマウスをクリックします。
3. すると、「タブ譜設定」ダイアログボックスが表示されるので、ここでタブ譜の線の数と楽譜の線間の間隔を設定します。「OK」ボタンを押すと該当する譜表がタブ譜に設定されます。



- ☑ 「タブ譜」に入力した音符は演奏されません。

- タブ譜への入力は、まず音符入力ツールバーから必要な長さの音符を選択してタブ譜に入力します。この時タブ譜には**数字 0** で入力されます。

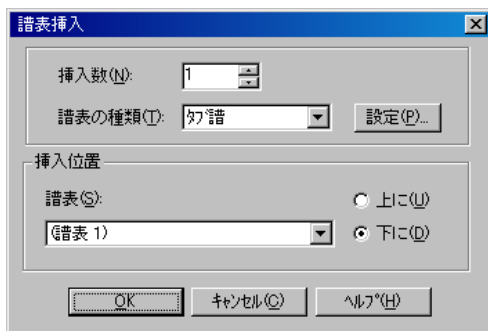


- 次に、入力ツールバーでタブ譜ボタン **0** をクリックして、タブ譜入力パレットを表示します。
- タブ譜入力パレットから必要な数字ボタンを選択して、すでに入力した数字 0 にマウスポインタを合わせてクリックします。

 **タブ譜では空の小節に数字記号を直接入力することはできません。**

新規にタブ譜表を追加する場合

1. まず、「楽譜」メニューの「譜表挿入」コマンドを選択して、「譜表挿入」ダイアログボックスを表示します。



2. 「譜表の種類」項目で「タブ譜」を選択します。次に、「設定」ボタンをクリックしてタブ譜の設定を行います。
3. 「OK」ボタンをクリックすると、新しいタブ譜が挿入されます。

「音符」

音符、休符、臨時記号、3連符などを楽譜に入力するための入力パレットです。入力ツールバーでこのボタンを選択するか、F4キーを押すと「音符」入力パレットが表示されます。

＜音符を入力するには＞

入力パレットで必要な種類の音符を選択し、譜面上にマウスポインタを移動させクリックして入力します。

＜休符を入力するには＞

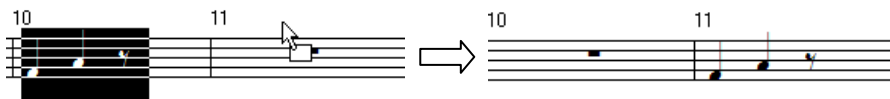
入力パレットで必要な休符を選択し、必要な場所にマウスポインタを移動させクリックして入力します。また、音符を選択した状態で[、]キーを押すと、その音符の長さに相等する休符が入力されます。

倍音符		— 倍休符
全音符		— 全休符
2分音符		— 2分休符
4分音符		— 4分休符
8分音符		— 8分休符
16分音符		— 16分休符
32分音符		— 32分休符
64分音符		— 64分休符
128分音符		— 128分休符
付点		— 複付点
連符		— 連符設定
シャープ		— フラット
ダブルシャープ		— ダブルフラット
ナチュラル		— カッコ

入力した音符や休符にマウスポインタを合わせると、ポインタの形が十字の矢印に変わります。この状態でマウスをクリックしてドラッグすることで、それぞれの位置を変えることができます。

通常は小節内のみの移動が可能ですが、小節線を越えて移動を行いたい場合は以下の手順を実行してください。

1. 選択ツールで対象の音符や休符を囲みます。
2. 選択範囲をクリックしたまま、目的の小節までドラッグします。



「Ctrl」キーを押しながらドラッグすると、コピーができます。

<連符を入力するには>

1. 入力パレットから連符にしたい音符を選択し、次に3連符ボタン  を押します。
2. この状態で譜面上をクリックすると、3 連符が入力できます。
3. 連符の種類や形態を変更するには入力パレットから連符設定ボタン  を押して「連符設定」ダイアログボックスを表示します。



◆2番目の数字を表示

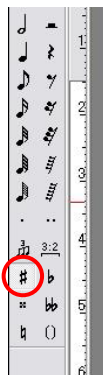
この項目にチェックを入れることで、入力した連符が、その連符を構成する音符の何拍分の長さになっているかを表示することができます。表示としては下図のようになります。



「この3連符の長さ = 8分音符2つ分」の意味になります。

<既に入力してある音符を連符にする場合>

1. 連符にしたい音符を選択ツールで囲みます。
2. マウスを右クリックして表示されるメニューより、「連符設定」を選択します。
3. 「連符設定」ダイアログボックスが表示されるので、必要な項目を設定して「OK」をクリックします。



< 臨時記号を入力するには >

入力パレットで必要な臨時記号をクリックすると、マウスポインタが選択した臨時記号の形に変わります。



マウスポインタを音符の符頭に合わせてクリックすると、臨時記号が入力されます。

パソコンのキーボードを使って音符を入力することもできます。

1. 標準ツールバーで「入力」ボタンを選択します。
2. 数字キーで入力したい音符の種類(例:8分音符→[4])を選択します。
3. 入力したい音程に該当するキー(例:ド→[A])を入力します。

※入力の際は、日本語入力がオフになっていることを確認してください。



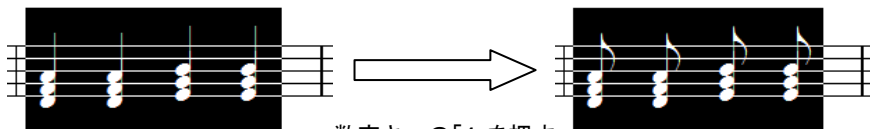
Ctrl キーを押しながらマウスで音符を上下または左右にドラックすると、音符をコピーできます。



音符の範囲を選択した状態で「、」キーを押すと、相等した長さの休符に変更できます。また、同じ操作で休符を音符に変更できます。



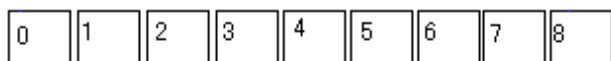
複数の音符を選択した状態で数字キーを押すと、選択した音符の長さを同時に変更できます。



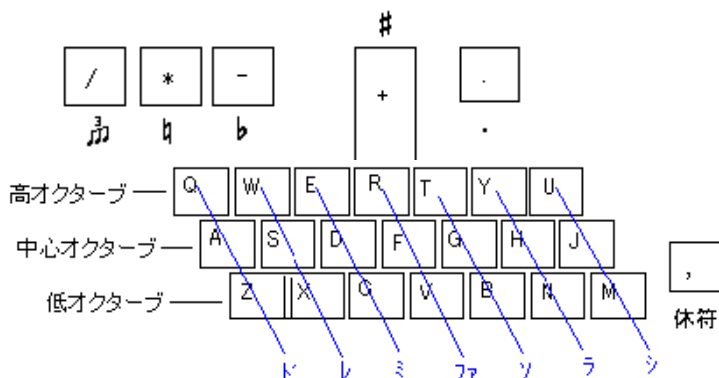
数字キーの「4」を押す



数字キーで音符を選択した後、複数の英字キーを同時に押すことで和音を入力することができます。



キー対応表



+	1回押すとシャープ、2回押すとダブルシャープ
-	1回押すとフラット、2回押すとダブルフラット
矢印キー	カーソルの位置を移動
CTRL+PageUp	前のページへ移動
CTRL+PageDown	後のページへ移動
Tab キー	カーソルの位置を次の小節へ移動
Shift+Tab	カーソルの位置を前の小節へ移動
Shift+英字キー	シャープの付いた状態で音符を入力
Caps Lock した状態で Shift+英字キー	フラットの付いた状態で音符を入力
Caps Lock した状態で英字キー	ナチュラルの付いた状態で音符を入力
Home キー	現在ページの最初の小節にカーソルが移動
Ctrl+Home	楽譜の最初の小節にカーソルが移動
End	現在ページの最後の小節にカーソルが移動
Ctrl+End	楽譜の最後の小節にカーソルが移動
Delete	範囲選択で囲まれた音符を消去
Page Up	現在のページをスクロールアップ
Page Down	現在のページをスクロールダウン
[	キーボードの音階を1オクターブ下げる
]	キーボードの音階を1オクターブ上げる

MIDI キーボードを用いた楽譜入力

＜MIDI キーボードによるステップ入力＞

1. 「設定」メニューより「MIDI 入出力ポート設定」を選択し、「入力ポート」項目を、接続している MIDI キーボードのデバイスに設定します。
2. 「入力」ボタンを選択します。
3. 入力したい音符に該当する数字キーを押します。
(例えば、8分音符なら数字キーの4を押します)
4. MIDI キーボードを演奏します。

＜MIDI キーボードによるリアルタイム入力＞

1. 「設定」メニューより「MIDI 入出力ポート設定」を選択し、「入力ポート」項目を、接続している MIDI キーボードのデバイスに設定します。
2. 「設定」メニューより、「MIDI ファイル読み込み/録音設定」を選択して、録音のための記譜クオンタイズ値を設定します。
3. 「設定」メニューの「録音時メトロノーム音出し」にチェックを入れます。
4. 「録音」ボタンをクリック、または「Enter」キーを押します。
5. メトロノームが4カウント鳴った後に録音がスタートします。

 「録音時メトロノーム音出し」にチェックが入っていないと、「録音」ボタンが押されると同時に録音が始まってしまうので、ご注意ください。

【注意】

既に音符が入力されている小節に録音すると、元々の音符は削除されます。

 「Microsoft GS Wavetable (SW) Synth」を使用する場合、鍵盤を押してから発音されるまでに若干の遅れが生じます。外部 MIDI 音源を使用することで、遅れが発生しない状態でのリアルタイム入力を実行できます。

「アーティキュレーション」

この入力パレットは、スタッカート、テヌート、フェルマータ、ペダルなどの奏法記号（アーティキュレーション）を入力するためのパレットです。入力ツールバーで、アーティキュレーションボタンを押すか、F5キーを押すことで表示されます。



＜アーティキュレーション記号を音符の上に表記するには＞

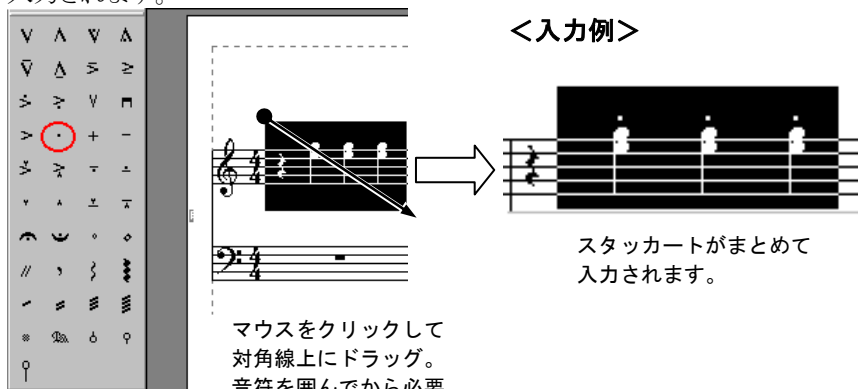
入力パレットで必要な記号をクリックして選択し、記号を付けたい音符の符頭に合わせてマウスをクリックします。

＜アーティキュレーション記号を音符の下に表記するには＞

入力パレットで必要な記号をクリックして選択し、記号を付けたい音符の符頭に合わせて「Ctrl」キー押しながらマウスをクリックします。

＜複数の音符に同時にアーティキュレーション記号を付けるには＞

1. 標準ツールバーの選択ボタンをクリックします。
2. マウスをドラッグしてアーティキュレーション記号を付けたい音符を選択します。
3. パレットより必要な記号をマウスで選択すると、選択された音符にまとめて記号が入力されます。



マウスをクリックして
対角線上にドラッグ。
音符を囲ってから必要
な記号を選択します。

＜アーティキュレーション記号を任意の位置に表記するには＞

入力パレットで必要な記号を選択して、譜面上の任意の位置でマウスをクリックします。
入力した記号は任意の位置にドラッグすることができます。

 この方法で入力できるのは、一部のアーティキュレーション記号に限られます。

＜アルペジオを表記するには＞

1. 入力パレットでアルペジオ記号をクリックして選択します。
2. アルペジオを付けたい位置でマウスをクリックした後、マウスを上から下へドラッグします。

 アーティキュレーション入力パレットで 、、、、 などの一部の記号は演奏に影響します。

「オーナメント

トリル、モルデント、運指番号などを入力するための入力パレットです。

この入力パレットは入力ツールバーでオーナメントボタン  を押すか、F6キーを押すことで表示されます。

入力の方法は「アーティキュレーション」の場合と同じです。

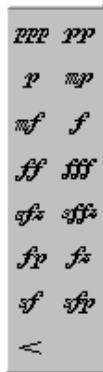
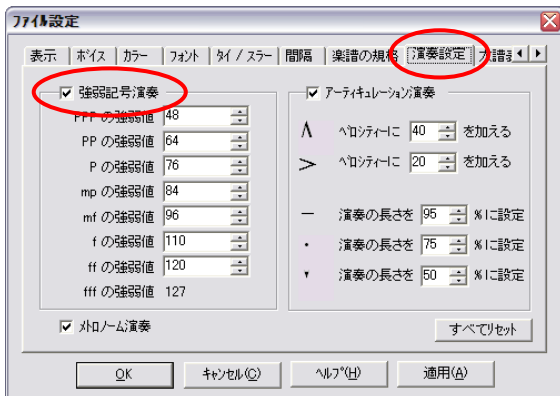


ピアノッシモ、メゾフォルテ、フォルテなど、音の強弱を楽譜に表記するための入力パレットです。

入力ツールバーで強弱記号ボタンを押すか、F7キーを押すことで表示されます。

強弱記号は、入力パレットで記号をクリックして選択した後、譜面上の必要な場所にマウスポインタを移動させてクリックすると入力されます。

-  「設定」メニューの「ファイル設定」ダイアログボックスで「演奏設定」シートを表示して「強弱記号演奏」項目をチェックすると、入力された強弱記号が演奏に反映されます。



「繰り返し記号」

コード、小節繰り返し記号などを楽譜に表記するための入力パレットです。

入力ツールバーで繰り返し記号ボタンを押すか、F8キーを押すことで表示されます。繰り返し記号は、パレットから記号を選択して、必要な小節にポインタを移動させてクリックすると入力されます。

「標準」: 標準的な小節線を設定します。

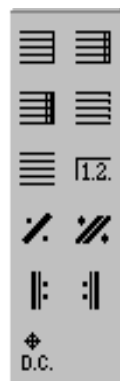
「2重線」: 小節線を2重線に表示します。

「終止線」: 小節線を終止線に表示します。

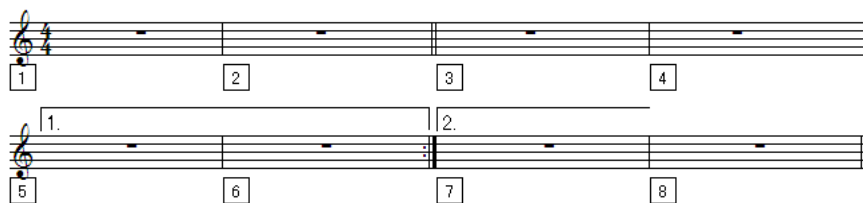
「点線」: 小節線を点線に表示します。

「小節線なし」: 小節線を隠します。

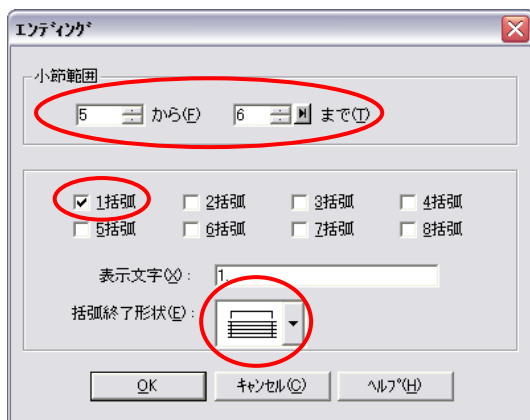
「エンディング」: 小節にエンディングを設定します。



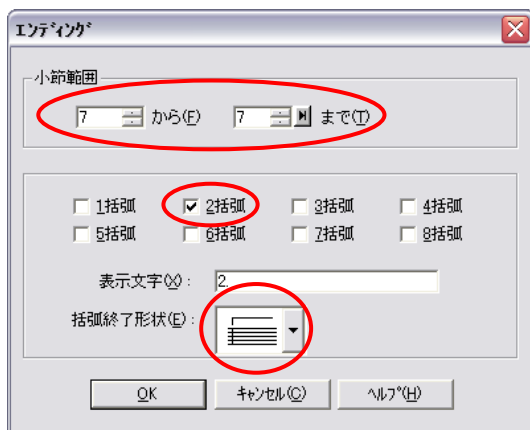
このツールを選択して楽譜内をクリックすると「エンディング」ダイアログボックスが開きエンディング記号を挿入できます。このツールは演奏に影響します。次のような譜面の作り方を例にとって説明します。



まず「1括弧」の付け方ですが、「エンディング」ダイアログボックスに、以下のような設定をして「OK」をクリックします。



次に「2括弧」の付け方ですが、こちらは下図のようになります。



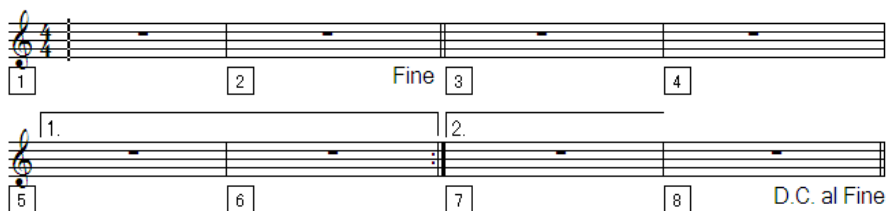
「表示文字」欄には、選択した括弧に対応した数字が自動的に入りますが、必要に応じて変更することも可能です。

「1小節繰り返し」: 前の1小節分を繰り返す記号を入力します。

「2小節繰り返し」: 前の2小節分を繰り返す記号を入力します。

「繰り返し線 、」:  に設定された小節から  に設定された小節までを、一回繰り返して演奏します。 に設定された小節が無い場合は、1小節目から繰り返します。

「D.C. 」: 「ダ・カーボ」や「ダル・セーニョ」等の繰り返し記号を入力します。このツールを選択して楽譜内をクリックすると、「繰り返し記号」ダイアログボックスが開き、繰り返し記号を入力できます。この記号は演奏に影響します。以下に入力の一例を示します。



先ほどのエンディングが付いた楽譜に、繰り返し記号を追加したものです。この楽譜で使用している「D.C. al Fine」は『楽譜の先頭まで戻った後、そこから Fine までを演奏する』という記号になります。



繰り返し記号ダイアログボックス

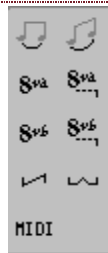
1. まず「繰り返し記号」ツールを選択し、2小節目の終わりの部分をクリックします。
2. 表示されたダイアログボックスより「Fine」を選択して「OK」をクリックします。
3. 続けて8小節目の終わりの部分をクリックして、今度は「D.C. al Fine」を選択して「OK」をクリックします。

 入力した記号の位置を調整する時は「選択ツール」に切り替えてください

以上で入力は完了です。この楽譜は
「1→2→3→4→5→6→1→2→3→4→7→8→1→2」
という流れで演奏されます。

「ツールボックス」

この入力パレットはタイ、スラー、8va、8vb、フルペダル、ハーフペダル、MIDI イベントを入力するための入力パレットです。入力ツールバーでツールボックスボタンを押すと「ツールボックス」入力パレットが表示されます。「表示」メニューの「ツールウィンドウ」より「ツールボックス」を選択するか、F9 キーを押すことでも表示できます。



<タイを入力するには>

1. ツールボックス入力パレットで「タイ」ボタンを選択します。
2. マウスポインタを、タイで結びたい音符の初めの音符の符頭に合わせてクリックします。
3. すると、その音符と後ろの音符がタイで連結されます。

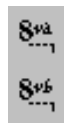
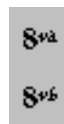
<スラーを入力するには>

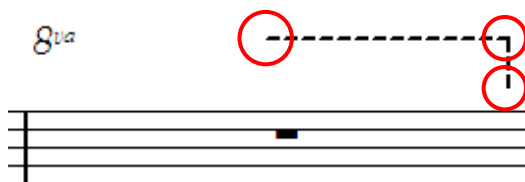
1. ツールボックス入力パレットで「スラー」ボタンを選択します。
2. マウスポインタを、スラーで結びたい最初の音符と最後の音符の符頭に合わせてそれぞれ順番にクリックすると、スラーが入力されます。

<、オクターブ記号を入力するには>

この記号は特定部分の音符を、譜面上に表示された状態より1オクターブ移調(上にまたは下に)して演奏させるときに利用します。「8va」は1オクターブ上に、「8vb」は下にずらして演奏します。

1. ツールボックス入力パレットで、オクターブ記号ボタンを選択します。
2. 移調を開始する部分の上、または下でマウスをクリックします。
3. 次に、「破線付きオクターブ記号ボタン」を選択し、移調を終了する部分の上か下でマウスをクリックしたまま動かします。縦方向、横方向で破線が自由に伸縮するので、適当な位置でマウスを放します。





- ✎ 上図の丸囲みした部分を、選択ツールでクリックしながら動かすことで、破線の長さを自由に変えることができます。
- ✎ 破線で終了位置を指定しない場合、オクターブ記号が設定された部分以降の音符は、すべて移調された状態で演奏されます。

＜フルペダル記号 、ハーフペダル記号 の入力＞

1. ツールボックス入力パレットでこれらのツールボタンを選択します。
2. 入力したい位置でマウスをクリックしたまま動かすと、記号が入力されます。
3. 記号の丸で囲った部分を選択ツールでドラッグすると、記号の長さやペダル・マークの位置を変更することができます。



「MIDI イベント 」

MIDIイベントは、モジュレーション、パン、リバーブなどの演奏効果と、譜表の途中で楽器音色を変更する場合に利用します。

- ✎ 使用するMIDI音源により、表現できる演奏効果が異なります。

パレットより「MIDI イベント 」ボタンを選択し、入力したい位置でマウスをクリックすると「MIDIイベント挿入」ダイアログボックスが表示されます。



- 演奏効果 : この項目をクリックすると、テキストボックスがアクティブになります。ここに演奏効果番号を入力するか、 ボタンをクリックして「演奏効果リスト」ダイアログより演奏効果を選択します。「値」に入力する数値で、効果の掛かり具合の大きさを指定します。

 数値は最小が「0」、最大が「127」です。

- 楽器音色 : この項目をクリックすると、テキストボックスがアクティブになります。ここに楽器音色番号を入力するか、 ボタンをクリックして「楽器設定」ダイアログより音色を選択します。

以下にMIDIイベントの入力例を解説します。

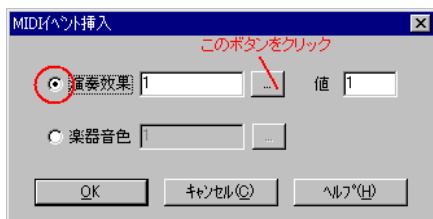
図のような楽譜の2小節目と3小節目に MIDI イベント(例としてモジュレーション効果の設定と、音色を Reed Organ への変更)を入力してみましょう。

 モジュレーションとは・・・

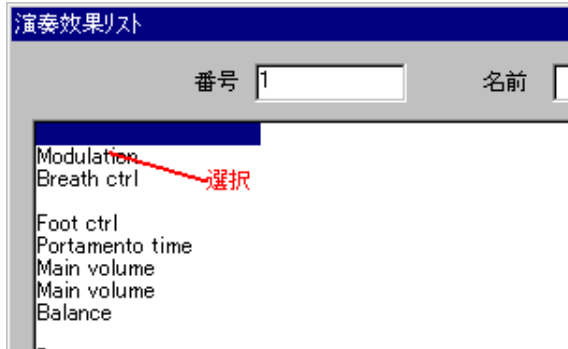
音程を細かく上下させることで、ビブラートのような効果を付加します。



1. 入力ツールバーより「ツールボックス」ボタン  をクリックします。
2. 表示されたパレットより「MIDIイベント」ボタン  を選択し、入力したい小節(3小節目)の上部分をクリックします。すると「MIDIイベント挿入」ダイアログボックスが表示されます。



3. 上の図に示したボタンをクリックすると「演奏効果リスト」ダイアログボックスが表示されます。



4. リストの中から「Modulation」を選択し「OK」を押します。次に「値」の欄に任意の数値を入力します。今回ははっきりとした効果を出すために大きめの数字を入力します。更にもう一度「OK」をクリックすることで演奏効果が設定されます。



5. 次に楽器音色を設定します。1譜表目の第2小節でマウスをクリックして「MIDI イベント挿入」ダイアログボックスを表示します。



6. 「楽器音色」にチェックを入れた後、図に示したボタンをクリックします。
「楽器設定」ダイアログボックスが表示されるので、ここで「Reed Organ」を選択して「OK」をクリックします。再度「OK」ボタンをクリックすることで、楽器音色が設定されます。



この状態で再生すると、音色が2小節目より「Reed organ」に変更され、3小節目からは「モジュレーション」効果を伴った演奏が再現されます。

-  演奏効果は一度入力すると、新たな数値が入力されるまでずっとその効果を保ち続けます。例えば、今回の譜例を一度再生すると、二回目に再生したときには冒頭からモジュレーション効果が掛かった状態で演奏されます。3小節目以降にのみモジュレーション効果を掛けたい場合は、1小節目の頭に「値が0」のモジュレーション効果を挿入してください。

「タブ譜入力パレット

タブ譜に数字記号を入力するための入力パレットです。

入力ツールバーでタブ譜ボタン  をクリックするか、「F10」キーを押すと「タブ譜」入力パレットが表示されます。タブ譜には0から25までの数字記号を入力することができます。

0	1
2	3
4	5
6	7
8	9
10	11
12	13
14	15
16	17
18	19
20	21
22	23
24	25

◇ 数字記号の入力

1. 入力ツールバーでタブボタン  をクリックすると、「タブ譜」入力パレットが表示されます。
2. 入力したい数字ボタンをマウスで選択します。
3. マウスポインタを、すでに編集された音符の符頭または数字記号に合わせてクリックすると、数字記号が入力されます。

◇ 数字記号の位置変更

1. 選択ボタン  を押します。
2. マウスポインタを移動しようとする数字記号に合わせて、形が  に変わります。
3. 記号をクリックして、移動しようとする位置までマウスをドラッグします。

「図形

この入力パレットは直線、円、曲線などの図形と、Music Score Pro2 で提供しない任意の記号を入力するための入力パレットです。

入力ツールバーにある図形ボタンを押すと「図形」入力パレットが表示されます。または「表示」メニューの「ツールウィンドウ」の「図形」を選択するか、F11 キーを押すと表示されます。

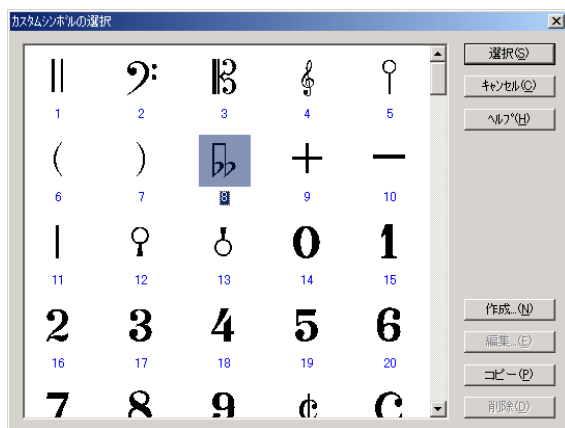
必要な記号のボタンを選択して、入力したい位置でマウスをクリックし、ドラッグすると図形が入力されます。

「線の太さ」で、図形を入力する際の線の太さを設定することができます。



<任意の記号を入力するには>

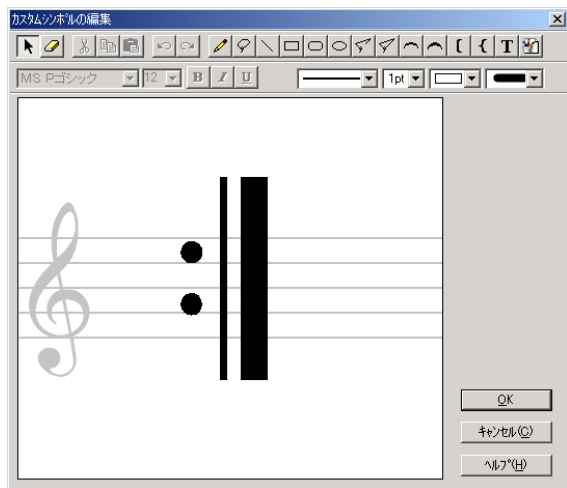
1. 「図形」入力パレットで「任意記号」ボタンを選択し、入力したい位置でマウスをクリックします。
2. 「カスタムシンボルの選択」ダイアログボックスが表示されます。
3. このダイアログボックスのシンボルリストで必要な記号を選択した後、「選択」ボタンをクリックすると、楽譜画面にシンボルが表示されます。



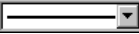
「**選択**」: シンボルリストから必要な記号を選択し、このボタンを押すことで楽譜上にシンボルが挿入されます。

「**キャンセル**」: 「シンボルの選択」ダイアログボックスを閉じます。

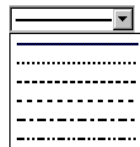
「作成」: 「カスタムシンボルの編集」ダイアログボックスが表示されます。ここでシンボルリストに存在しない新しい記号を作成、編集します。



- ✓ 選択 : 編集窓内のシンボルを選択、移動する際にクリックします。
- ✓ 削除 : このボタンをクリックした後、削除しようとするシンボルにマウスポインタを合わせると、形が⊖になります。マウスのクリックでシンボルが削除されます。
- ✓ 切り取り : 選択したシンボルを切り取ります。
- ✓ コピー : 選択したシンボルをコピーします。
- ✓ 貼り付け : コピーしたシンボルを貼り付けます。
- ✓ 元に戻す : 実行した操作を元に戻します。
- ✓ やり直し : 元に戻した操作をやり直します。
- ✓ 描画ツール : このボタンを利用して直線、四角形、円、多角形、ブラケット、ブレイス、テキスト、及びイメージを入力します。
- ✓ テキストバー: : シンボルに挿入するテキストのフォント名、サイズ、形式を設定します。

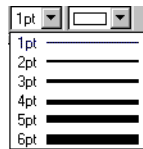
- ✓ 線のスタイル: 

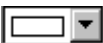
コンボボックスを押すと線スタイルリスト窓が表示されます。
実線、点線、破線、などを選択できます。



- ✓ 線の幅: 

コンボボックスを押すと線の幅窓が表示されます。
線の幅を1pt～6pt に設定できます。



- ✓ 塗りスタイル: 

コンボボックスを押すと塗りスタイル窓が表示されます。



- ✓ 線端スタイル: 

コンボボックスを押すと線端スタイル窓が表示されます。



- ✓ OK:

編集したシンボルを保存して「カスタムシンボルの編集」ダイアログボックスを閉じます。

- ✓ キャンセル:

シンボルの編集を取り消して「カスタムシンボルの編集」ダイアログボックスを閉じます。

「編集」: このボタンは、ユーザによって追加されたカスタムシンボルを選択した場合のみアクティブになります。この時、「編集」ボタンを押すと「カスタムシンボルの編集」ダイアログボックスが表示されます。

「コピー」: シンボルリストの中からコピーしたいシンボルを選択して、このボタンをクリックすると、選択したシンボルがリストの最後の位置にコピーされます。

「削除」: シンボルリストから削除しようとするシンボルを選択して、このボタンをクリックすると、選択したシンボルがリストから削除されます。ユーザが追加したシンボルのみ削除できます。

「カラー」

入力する記号の色を変更するためのパレットです。

入力ツールバーでカラーボタンを押すと「カラー」入力パレットが表示されます。または「表示」メニューの「ツールウィンドウ」の「カラー」を選択するか、F12 キーを押すと表示されます。

音符および記号のカラーを変更するには、入力したい音符、記号を選択した後に、カラーパレットから色を選びます。



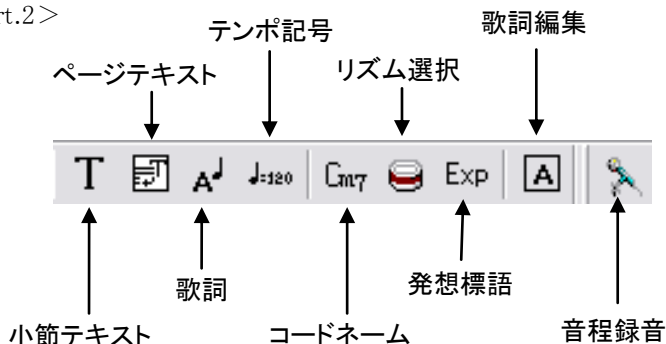
 別の音符や記号が選択される度に、カラーは初期状態（黒色）に設定されます。

＜入力済みの音符、および記号のカラーを変更するには＞

選択ツールでカラーを変更したい音符や記号を囲んでから、カラーパレットより色を選択してください。

 カスタムシンボルの色は変更できません。

<Part.2>



「小節テキスト T」

譜表上に小節所属テキストを入力するためのボタンです。

1. 入力ツールバーから「小節テキスト」ボタン **T** を選択して、小節テキストを入力しようとする小節の位置でマウスをクリックします。
2. 書式バーと一緒にテキスト入力枠が表示されます。



3. 書式バーよりフォント、フォントサイズなどを選択してテキストを入力します。

入力したテキストは小節に属します。そのため小節の削除、移動、貼り付けを実行すると、小節テキストもそれに追従します。

「ページテキスト

譜表上にページ所属テキストを入力するためのボタンです。

1. 入力ツールバーで小節テキストボタン  を選択して、ページテキストを入力しようとする位置でマウスをクリックします。
2. 書式バーと一緒にテキスト入力枠が表示されます。
3. 書式バーよりフォント、フォントサイズなどを選択してテキストを入力します。

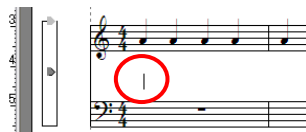
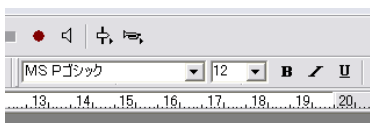
入力したテキストはページに属します。そのため、ページを削除するとページテキストも一緒に削除されます。

入力した音符に対して歌詞を付けることができます。

-  歌詞を付ける音符は、「ボイス1」で入力してください。「ボイス2」以降で入力した音符に対しては、歌詞の入力ができません。

<歌詞を入力するには>

1. 入力ツールバーで「歌詞ボタン」を選択すると書式バーが表示され、音符の下にカーソルが点滅します。



2. 書式バーのフォントリストより、歌詞のフォントを選択します。
3. 音符に対する歌詞を入力します。半角英数字入力の場合は「Space」キーを押すごとに次の音符へ移動します。全角入力の場合は「Enter」キーで入力を確定した後、もう一度「Enter」キーを押すと次の音符に移ります。
4. 2節目以降の歌詞を入力するには、楽譜の左側に薄いグレーで表示されているハンドルを、第1節ハンドルの下にドラッグします。

グレーのハンドルをクリックしたままこの位置にマウスを持てきます。

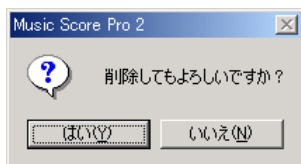


この操作を反復すると、最大8節目までの歌詞を入力することができます。ハンドルを上下に動かして、各節の歌詞位置を変更することもできます。

5. 歌詞を節ごと削除するには、該当する節の歌詞ハンドルを、薄いグレーのハンドル部分までドラッグします。

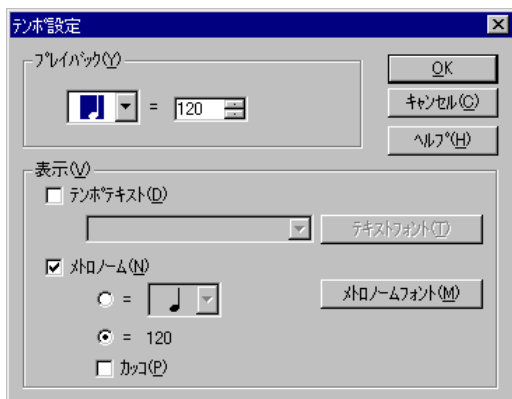


次のようなメッセージが表示されますので、「はい」ボタンを押すと削除されます。



「テンポ記号

譜表上にテンポ記号を入力するためのボタンです。テンポ記号ボタン  を選択した後、テンポ記号を入力したい場所をクリックすると、「テンポ設定」ダイアログボックスが表示されます。

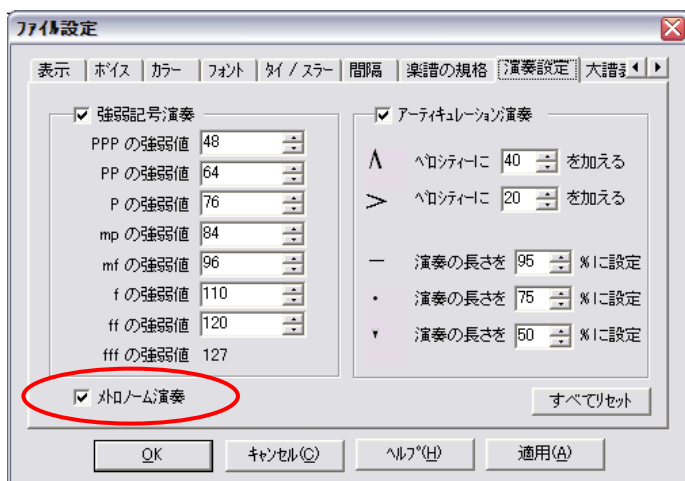


「プレイバック」： 1分間に何拍の速さで再生するかを指定します。

「テンポテキスト」： 速度記号を選択します。

「メトロノーム」： テンポの表示形式を選択します。

-  「設定」メニューの「ファイル設定」ダイアログボックスにある、「演奏設定」シートで「メトロノーム演奏」項目にチェックを入れると、入力されたテンポ記号が演奏に影響します。

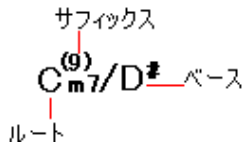


「コードネームの選択 Cm7」

譜表上にコードネームを入力するためのボタンです。
このボタンをクリックすると、「コードネームの選択」ウィンドウが表示されます。

<コードネームの定義>

コードネームは譜表内にアルファベットと数字で表記されるコード記号の名前です。



読み方：シー・マイナー・ナイン・オン・ディーシャープ

「ルート(根音)」

コードの基礎となる音を指します。

「ベース」

コードの最低音を指します。ルート以外の音がベース音として使用される場合、上図のように斜線の右側にベース音を表記します。

「サフィックス」

サフィックスは、「m7」や「sus4」といったコードネームの接尾辞を指し、コードを構成する音の配列パターンを示します。

<コードネームの選択ウィンドウ>

「コードネーム表示窓」

コードネームのプレビュー画面です。

「ルート」

コードネームのルート音を指定します。

「ベース」

コードネームのベース音を指定します。

「サフィックス」

サフィックスの種類を指定します。

「カスタム」

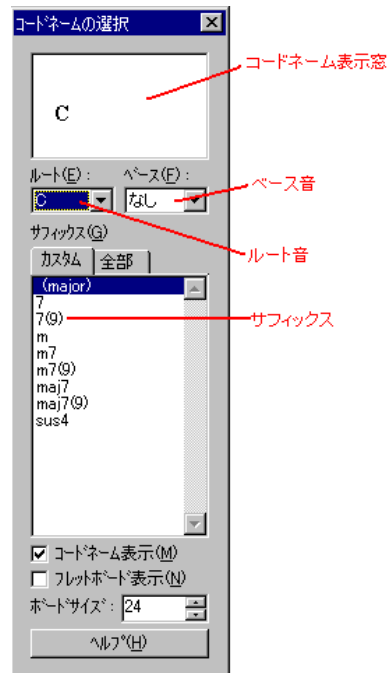
よく使われるサフィックスをまとめたものです。

「全部」

コードサフィックスライブラリのすべてのサフィックスを表示します。

「コードネーム表示」

フレットボードが表示された時にコードネームの表示、非表示を選択します。



「フレットボード表示」

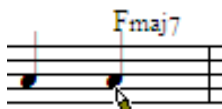
フレットボードの表示、非表示を選択します。

「ボードサイズ」

フレットボードのサイズを指定します。

<コードネームを入力するには>

1. コードネームの選択ウィンドウより、「ルート」、「ベース」、「サフィックス」の各項目を選択します。
2. 譜面上にマウスポインタを移動すると、ポインタの上に選択したコードネームが表示されます。
3. コードネームを入力したい音符の符頭、または小節で、マウスをクリックします。



- 入力されたコードネームは音符、また小節に追従するものとなります。
- コードネームを上下左右にドラッグして、位置を変更することができます。上下の移動についてのみ、Ctrl キーを押しながら移動すると、同じブロックのコードネームが同時に移動します。

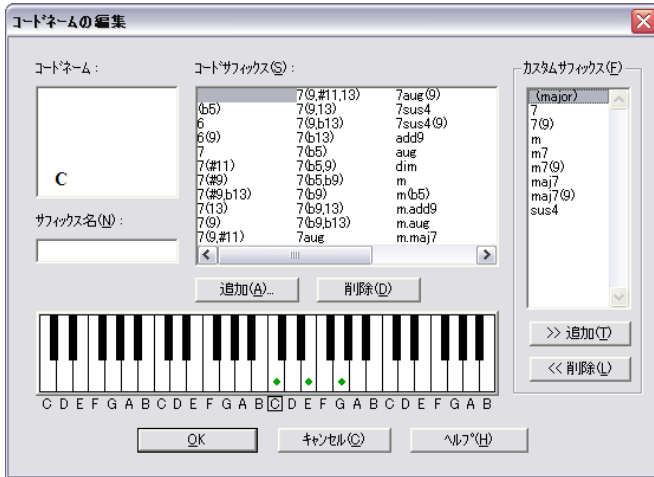
<コードネームのフォントを変えるには>

「設定」メニューの「ファイル設定」ダイアログボックス内にある「フォント」より変更することができます。



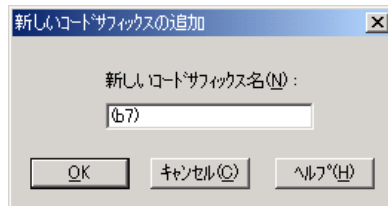
＜コードネームを編集するには＞

「サフィックス」リストで任意の項目をダブルクリックすると「コードネームの編集」ダイアログボックスが表示されます。ここで新しいコードネームを追加または変更、削除することができます。

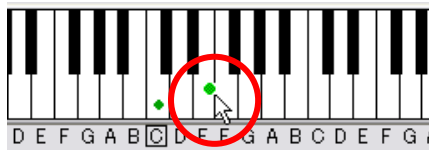


- 「ファイル」メニューの「ライブラリーの編集」メニューから「コードネームの編集」を選択しても、同じ画面が表示されます。

1. 「追加」ボタンを押すと、「新しいコードサフィックスの追加」ダイアログボックスが表示されます。



2. 入力規則(次ページに表示)に従ってコードサフィックスを入力し「OK」ボタンを押すと、「コードネームの編集」ダイアログボックスに、追加されたコードサフィックスが表示されます。
3. 鍵盤上にマウスポインタを移動すると、下図の状態にポインタが変化します。



この状態で任意の鍵盤をクリックすることで、構成音の編集を行えます。
鍵盤をクリックするごとに、チェックのオン、オフが切り替わります。

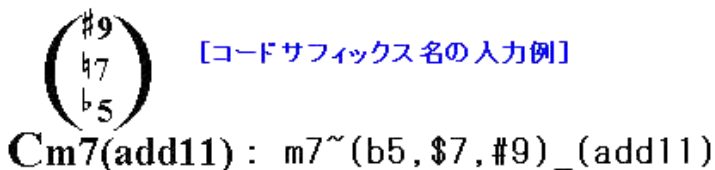
4. 「OK」ボタンを押した後、「コードネームの選択」ウィンドウを表示し、「全部」タブをクリックすると、新しく追加したコードサフィックスが表示されます。

 サフィックスの編集は、Cコードの構成を基本にして行います。Cコードのルートである「ド」の音に対して、どれだけ離れた音が追加されたかを判断し、他のコードに対してそのサフィックスが選択された際には、そのコードのルートから同じ距離だけ離れた音を追加します。

コードサフィックス名の入力規則

- ◇ **~(チルダ)**: この記号で始まる文字は上段に表示されます。
- ◇ **_(アンダーライン)**: この記号で始まる文字は下段に表示されます。
- ◇ **b**: この記号はフラットを示します。
- ◇ **\$**: この記号はナチュラルを示します。
- ◇ **#**: この記号はシャープを示します。

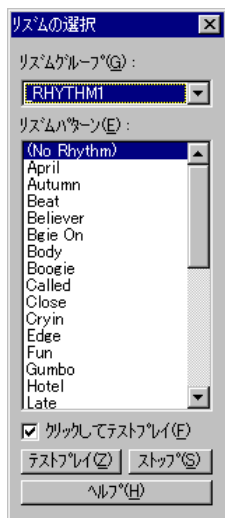
下に入力の例を示します。

 **[コードサフィックス名の入力例]**
Cm7(add11): m7~(b5,\$7,#9)_(add11)

「リズムの選択」

譜表上にリズムパターンを入力するためのボタンです。

「リズムの選択」ボタンをクリック、または「Ctrl+Alt+S」キーを押すと「リズムの選択」ウィンドウが表示されます。このウィンドウで入力したいリズムパターンを選択します。
1つのリズムパターンが複数のグループに含まれる場合もあります。



「リズムグループ」： リズムグループを選択します。

「リズムパターン」： リズムパターンを選択します。

「クリックしてテストプレイ」： この項目をチェックすると、リズムパターンを選択するたびに、そのリズムを演奏します。

「テストプレイ」： このボタンをクリックすると、選択したリズムパターンを演奏します。

「ストップ」： リズムのテストプレイを中止します。

＜リズムを入力するには＞

1. リズムグループ、及びリズムパターンから入力したいリズムを選択します。
2. 譜面上にマウスポインタを移動すると、ポインタにリズム名が表示されます。
 テストプレイ中はリズム名が表示されませんが、そのままコードネームをクリックすることでリズムを入力することができます。
3. リズムを付けたいコードネームにマウスポインタを合わせると、ポインタの形がペンになります。この状態でマウスをクリックすると、リズムが入力されます。リズムは対象のコードネームとセットになります。



-  リズムを「選択無し」の状態にするには、リストより「No Rhythm」を選び、該当する部分に入力してください。

「発想標語の選択」

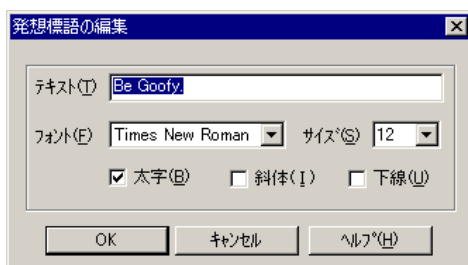
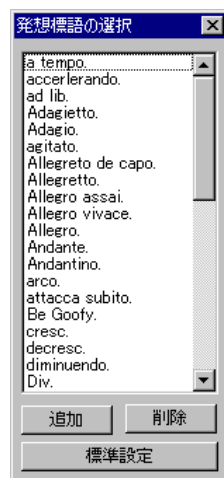
入力ツールバーで発想標語の選択ボタンをクリックすると、「発想標語の選択」ウィンドウが表示されます。このウィンドウで入力したい発想標語を選択します。

＜「発想標語の選択」ウィンドウについて＞

「追加」：「発想標語の編集」ダイアログボックスが表示されます。発想標語のテキスト、フォント、サイズを編集します。

「削除」：現在選択されている発想標語を削除します。

「標準設定」：発想標語リストを初期状態に戻します。



「発想標語の編集」ダイアログボックス

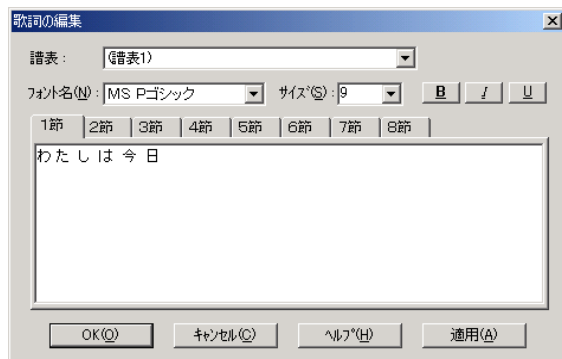
＜発想標語を入力するには＞

1. 「発想標語の選択」ウィンドウより、入力しようとする発想標語を選択します。
2. 譜表内の発想標語を付けたい位置でマウスをクリックします。

「歌詞の編集」

ダイアログボックス上で、歌詞を編集するためのボタンです。

入力ツールバーで「歌詞の編集」ボタンをクリックすると、「歌詞の編集」ダイアログボックスが表示されます。



「譜表」： 編集しようとする譜表を選択します。

「フォント名」： 歌詞のフォント名を設定します。

「サイズ」： 歌詞のフォントサイズを設定します。

「スタイル」： 歌詞フォントのスタイルを設定します。

「1 節－8 節」： 8つのタブボタンによって 8 節まで歌詞を編集できます。

- 📌 上図のように一文字ずつスペースを入れて入力することで、音符のひとつずつに歌詞を割り振ることができます。
- 📌 「歌詞の編集」ダイアログボックスで編集された歌詞は、常に楽譜の最初の音符から割り当てられます。従って、任意の音符に歌詞を入力しようとする場合は「歌詞」ボタン  を利用してください。

「音程録音」

マイクから録音された音程を認識して、音符を入力するための機能です。

「音程録音」ボタン  を押すと、「録音設定」ダイアログボックスが表示されます。

※マイクの接続については、お使いのパソコンのマニュアルをご参照ください。

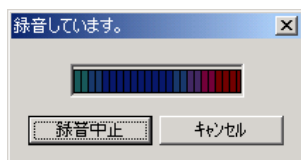


「**記譜クオンタイズ値**」： 記録しようとする音符の最小単位を選択します。

「**スタート音**」： 認識された音程を楽譜に記譜する際の、初めの音符の音程を指定します。そのため、スタート音の設定によって楽譜は移調されて表記されます。

「**発声テンポ**」： 録音する際のテンポを入力します。

「録音」ボタンを押すと下図のウィンドウが表示され、録音がスタートします。



テンポの目安になるパートが無い場合は、メニューバーの「設定」メニューより「録音時メトロノーム音出し」にチェックを入れておくと、メトロノーム音が鳴ります。

 **メトロノーム音を出す設定にした場合は、録音ボタンを押した後に1小節分のカウントが入り、それから録音がスタートします。チェックが入っていないと「録音」ボタンが押されると同時に録音が始まってしまうので、ご注意ください。**

録音中に「録音中止」ボタンをクリックすると録音を中止し、譜面上に認識された音符を表示します。

◆ 書式バー

書式バーは「表示」メニューにある「ツールウィンドウ」のサブメニューから「書式バー」を選択するか「Ctrl+F10」キーを押すと表示されます。テキスト入力、歌詞入力の状態以外では、グレーに表示されています。



書式バーには「フォント」、「フォントサイズ」、「行間の間隔」ポップアップメニューと「太字」、「斜体」、「下線」、「左」、「中央」、「右」、「リハーサルマーク」ボタンがあります。

「フォント、サイズ、スタイル」:

「フォント」、「フォントサイズ」、「行間の間隔」ポップアップメニューと「太字」、「斜体」、「下線」、「左」、「中央」、「右」ボタンは普通の文書を編集する場合と同じ要領で使用できます。

「リハーサルマーク」:

このボタンをクリックすると、テキストに四角い枠を付けます。

◆ ステータスバー

ステータスバーは「表示」メニューの「ステータスバー」をチェックすると表示されます。コマンド、ツールボタンにマウスポインタを置くと、その機能についての説明がステータスバーに表示されます。

< 音符の入力状態での表示 >

編集操作についての説明を表示します。

音符入力時のオクターブを表示します。

編集したい位置でクリックしてください。

譜表: 2

カーソルの位置: 1: 2: 184, A2

中心オクターブ = C4

マウスカーソルの置かれた譜表の番号を表示します。

小節の位置を表示します。(小節番号: 拍子: ティック, ピッチ)

＜音符の入力状態でない場合の表示＞

クリックまたはドラッグにより選択または変更、移動します。 譜表：2 カーソルの位置：5：2：109

◆コントロールパネル

メインウィンドウの下側にコントロールパネルがあります。



「ルール表示／非表示」:

左端にあるこのボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、ルールーの表示と単位を設定できます。

「ボイス設定」:

「ボイス設定」ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが現れ、ボイス1～8または「すべて」のボイスを選択できます。

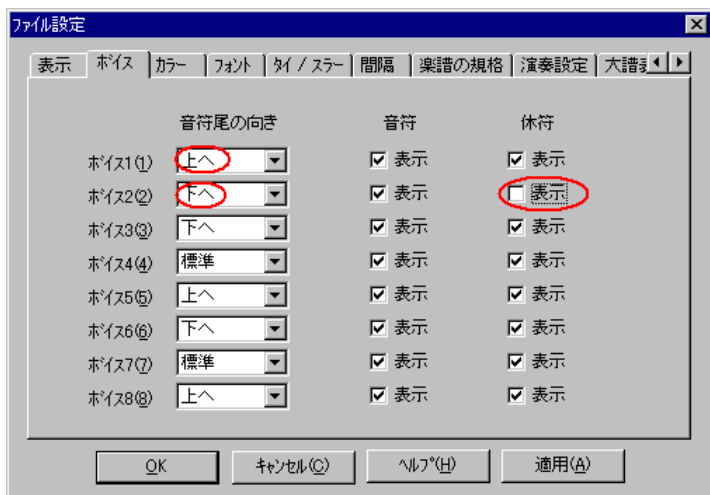
＜ボイスごとの音符入力、編集＞

ひとつの楽譜に最大8つのボイス(声部)を記譜することができます。



メニューバーの「設定」より「ファイル設定」をクリックすると、「ファイル設定」ダイアログボックスが表示されます。その中の「ボイス」タブより、各ボイスについての設定を行います。

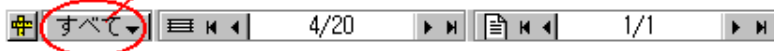
上図を例に取って、ボイス1の音符尾の向きは上に、ボイス2の音符尾の向きは下に、また、ボイス1の休符は表示、ボイス2の休符は非表示に設定してみます。



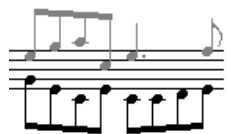
このウィンドウで設定した音符尾の向きは、「適用」を押した以降より入力される音符から有効になります。

コントロールパネルのボイス設定ボタンを「すべて」から「ボイス1」に切り換えます。

ボイス1に

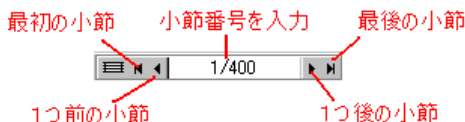


1. ボイス1の音符を入力します。音符尾はすべて上向きで入力されます。
2. コントロールパネルのボイス設定ボタンを「ボイス1」から「ボイス2」に切り換えます。この時、ボイス1の音符はグレーに表示されます。
3. ボイス2の音符を入力します。音符尾はすべて下向きで入力されます。



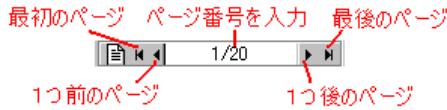
コントロールパネルのボイス設定ボタンを「すべて」にすると、ボイス1とボイス2の音符がすべて楽譜に表示されます。

「小節カウンター」:



矢印ボタンをクリックして、カーソルを最初の小節、1つ前の小節、1つ後の小節、最後の小節に移動できます。または小節番号フィールドをクリックして移動したい小節番号を入力した後、[Enter]キーを押すと指定の小節に移動します。

「ページカウンタ」:



矢印ボタンをクリックして、カーソルを最初のページ、前のページ、後のページ、最後のページに移動できます。またはページ番号フィールドをクリックして移動したいページ番号を入力した後、[Enter]キーを押すと指定のページに移動します。

「スクロールバー」:

メインウィンドウには垂直、水平スクロールバーがあり、楽譜画面を上下左右に移動させることができます。[page up]、[page down]キーを使って画面を移動させることもできます。また、[home]、[end]キーを押すことで、そのページ内における楽譜の先頭、または末尾にカーソルを移動することができます。

◆メニューバー

1. ファイルメニュー

データの作成、保存などを実行するのに必要なコマンドをまとめたメニューです。

新規作成

新しい楽譜を作成します。

ファイル(F)	編集(E)	表示(V)	音符(N)
新規作成(N)...		Ctrl+N	
テンプレートから開く...			
開く(O)...		Ctrl+O	
楽譜のマージ(M)...			
閉じる(C)			
上書き保存(S)		Ctrl+S	
名前を付けて保存(A)...			
イメージパラメータの設定...		Ctrl+Alt+X	
イメージとして保存...		Ctrl+Alt+Z	
パート譜作成(E)...			
ライブラリーの編集(L)			
ヘッダー/フッター編集(H)...			
楽譜情報(I)...			
印刷用紙サイズに合わせる			
フリントの設定(B)...			
印刷レビュー(V)			
印刷(P)...		Ctrl+P	
最近使ったファイル			
終了(X)		Alt+F4	

新規作成

ページあたりのブロック数(B):

ブロックあたりの譜表数(S):

ブロックあたりの小節数(M):

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

「ファイル」メニューより「新規作成」をクリックすると、上のダイアログボックスが表示されますが「標準ツールバー」より「新規作成ボタン」をクリックした場合は、このダイアログボックスは表示されずに、ページあたりのブロック数、譜表数、小節数が初期状態に設定された楽譜が新たに作成されます。

各項目が初期の状態では、以下のような楽譜が作成されます

The diagram illustrates the initial state of a musical score. It consists of 5 blocks, each containing 2 staves and 4 measures. The blocks are numbered 1 to 5 on the left. The staves within each block are numbered 1 to 2 on the right. The measures within each staff are numbered 1 to 4 at the bottom. Red boxes highlight the first block, the first staff within the first block, and the first measure within the first staff. Arrows point from the labels 'ブロック', '譜表', and '小節' to these highlighted elements. A vertical dashed line separates the blocks. A horizontal dashed line separates the staves within a block. A vertical dashed line separates the measures within a staff.

① ブロック

② 譜表

③ 小節

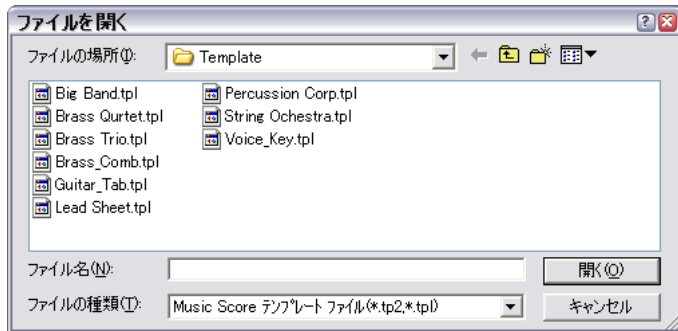
④ ブロックあたりの譜表数

⑤ ブロックあたりの小節数

テンプレートから開く

テンプレート楽譜を開く時に使用するコマンドです。

「ファイル」メニューの「テンプレートから開く」を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

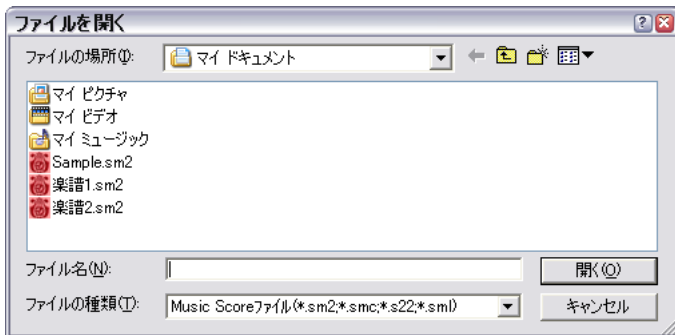


Music Score Pro2 のテンプレートファイル「*.tp2」の他に、Music Score シリーズの以前のバージョンで使ったテンプレートファイル「*.tpl」を展開できます。

開く

既に作成し保存された楽譜を開く時に使用するコマンドです。

「ファイル」メニューの「開く」を選択するか標準ツールバーの「開く」ボタンをクリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

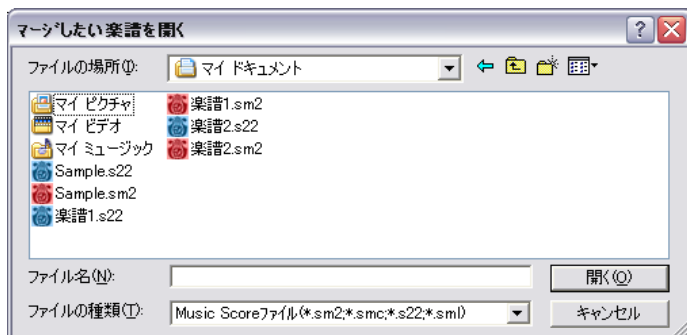


<Music Score Pro2 で開く事が可能な楽譜ファイルの種類>

- Music Score Pro2 の楽譜ファイル「*.sm2」
 - Music Score 2.2 の楽譜ファイル「*.s22」
 - Music Score シリーズの以前のバージョンの楽譜ファイル「*.smc」「*.sml」
 - スタンダード MIDI ファイル「*.mid」、「*.rmi」
-  MIDIファイルに歌詞が含まれている場合は、楽譜と一緒に表示します。
- 楽譜編集ソフト Encore の楽譜ファイル「*.enc」
 - Music Score Pro2 のテンプレートファイル「*.tp2」
 - Music Score シリーズの以前のバージョンで使ったテンプレートファイル「*.tpl」

楽譜のマージ

2つ以上の楽譜を1つの楽譜につなぐ場合に使用するコマンドです。
「ファイル」メニューの「楽譜のマージ」を選択すると、「マージしたい楽譜を開く」ダイアログボックスが表示されます。



つなぎたい楽譜のある場所とファイル名を指定します。
現在開かれている楽譜の最後のページに、選択した楽譜をつなぎます。

 マージされる楽譜ファイルで、ブロックあたりの譜表数が異なる場合は譜表数の多い楽譜が基準になります。

閉じる

作成中の楽譜を閉じます。閉じようとする楽譜ファイルに更新された内容があれば、保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されるので、「はい」を選択すると「名前を付けて保存」を行った後、ファイルを閉じます。

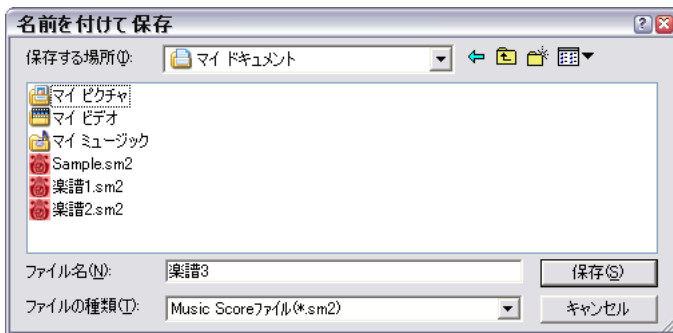
上書き保存

作成中の楽譜を保存します。

楽譜ファイルを同じ名前で上書き保存します。上書き保存しようとする楽譜ファイルがディスクに存在しない場合は、「名前を付けて保存」と同じ動作となります。

名前を付けて保存

作成中の楽譜ファイルを別名で保存したり、MIDI 形式や、テンプレートファイルとして保存する場合に使用するコマンドです。



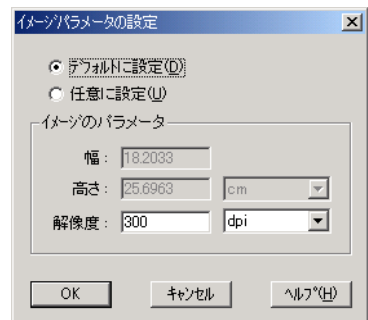
＜Music Score Pro2 で保存可能な楽譜ファイルの種類＞

- Music Score Pro2 の楽譜ファイル「*.sm2」
- スタンダード MIDI ファイル「*.mid」
 - 📌 楽譜に歌詞が含まれている場合は、楽譜と一緒に保存します。
- Music Score Pro2 のテンプレートファイル「*.tp2」

イメージパラメータの設定

保存したいイメージファイルのパラメータを設定する場合に使用するコマンドです。

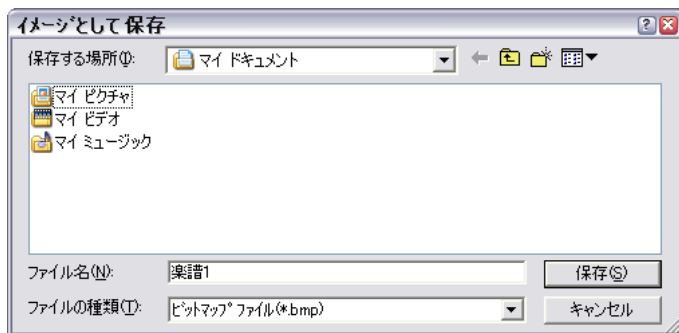
「ファイル」メニューの「イメージパラメータの設定」を選択すると、「イメージパラメータの設定」ダイアログボックスが表示されます。



- デフォルトに設定
イメージファイルを、現在設定されている印刷用紙サイズに設定します。
- 任意に設定
イメージのパラメータ項目で幅と高さを任意に設定できます。

イメージとして保存

作成中の楽譜をイメージファイルに保存する場合に使用するコマンドです。
「ファイル」メニューの「イメージとして保存」を選択すると、「イメージとして保存」ダイアログボックスが表示されます。

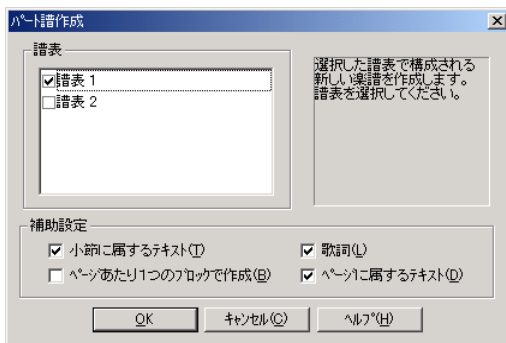


＜Music Score Pro2 で保存可能なイメージファイルの種類＞
***.bmp、*.jpg、*.gif、*.tif**

Music Score Pro2 では、楽譜ページ別にイメージファイルを作成します。よって楽譜ページが4の場合は4個のイメージファイルが作成されます。

パート譜作成

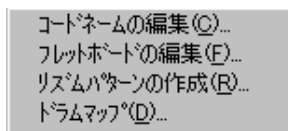
選択した譜表のみで構成される楽譜（パート譜）を作成する場合に使用するコマンドです。
「ファイル」メニューの「パート譜作成」を選択すると「パート譜作成」ダイアログボックスが表示されます。



- **譜表:**
パート譜にしたい譜表にチェックを入れます。
- **小節に属するテキスト:**
この項目をチェックすると、選択された譜表に表示されているテキストが新しく作成されるパート譜にも表示されます。
- **歌詞:**
この項目をチェックすると、選択された譜表に表示されている歌詞が新しく作成されるパート譜にも表示されます。
- **ページあたり1つのブロックで作成:**
この項目をチェックすると、1ページにつき1つのブロックでパート譜を作成します。
- **ページに属するテキスト:**
この項目をチェックすると、新しく作成するパート譜に、元の楽譜のページテキストを表示します。
- **「OK」:**
このボタンをクリックすると、選んだパートによる新しい楽譜が作成されます。
- **「キャンセル」:**
このボタンをクリックすると、元の楽譜画面に戻ります。

ライブラリーの編集

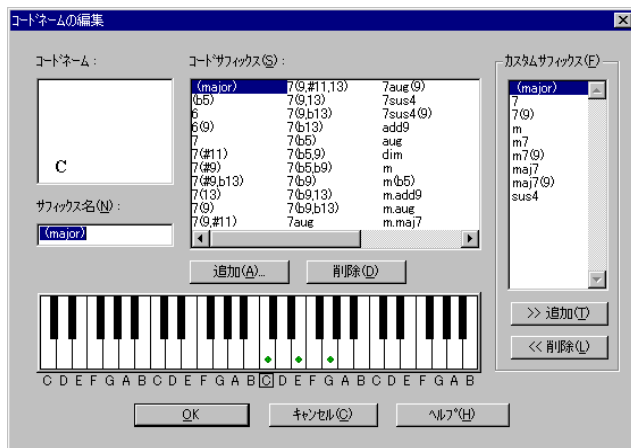
ライブラリーを編集するコマンドです。このコマンドには次のサブメニューがあります。



<コードネームの編集>

現在使われているコードネームのサフィックスを変更、新規作成、削除する場合に利用します。

「ファイル」メニューの「ライブラリーの編集」サブメニューから「コードネームの編集」を選ぶと、「コードネームの編集」ダイアログボックスが表示されます。

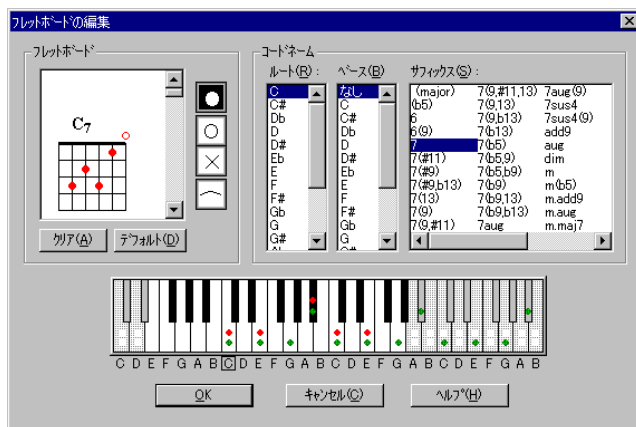


- **コードネーム:**
コードネームのプレビュー画面です。
- **コードサフィックス:**
サフィックスの種類を指定します。
- **サフィックス名:**
現在選択したサフィックスを表示します。この編集ボックスで選択したサフィックスの名前を修正できます。
- **「追加」:**
このボタンをクリックすると「新しいコードサフィックスの追加」ダイアログボックスが表示されます。ここで新しいコードサフィックス名を入力し、「OK」ボタンをクリックすると新しいコードサフィックスが追加されます。詳細については76ページを参照してください。
- **「削除」:**
選択したサフィックスを削除します。
- **ミニ鍵盤:**
サフィックスを選択すると、ミニ鍵盤にコード構成音が表示されます(Cをルートとして表示されます)。鍵盤をクリックして構成音を編集することが可能です。C以外の音をルートとした場合には、コードライブラリーに登録される時点で、自動的にルートをCとして移調されます。
- **カスタムサフィックス:**
よく使われるサフィックスを別にまとめたものです。

- 「>> 追加」:
「コードサフィックス」リストで現在選択されているサフィックスを「カスタムサフィックス」リストに追加します。「コードサフィックス」リストのサフィックスをダブルクリックしても追加されます。
- 「<< 削除」:
「カスタムサフィックス」リストで現在選択されているサフィックスを削除します。「カスタムサフィックス」リストのサフィックスをダブルクリックしても削除されます。
- 「OK」:
このボタンをクリックすると、コードネームライブラリーに加えた変更を保存します。
- 「キャンセル」:
このボタンをクリックすると、変更する前のライブラリーをそのまま保持します。

＜フレットボードの編集＞

選択されたコードネームに該当するギターフレットボードの表示を編集する場合に利用します。「ファイル」メニューの「ライブラリーの編集」サブメニューから「フレットボードの編集」を選ぶと、「フレットボードの編集」ダイアログボックスが表示されます。



- ルート:
コードネームのルート音を指定します。
- ベース:
コードネームのベース音を指定します。
- サフィックス:
サフィックスの種類を指定します。

- **フレットボード編集ウィンドウ:**

フレットボードの編集ウィンドウにあるスクロールバーを移動して、フレット番号を選択します。フレットボード表示ウィンドウの右にある、縦に並んだ4つのボタンで編集を行います。

- ✓   ボタンは、選択して必要な位置をマウスでクリックします。
- ✓  ボタンは、選択して必要な位置をクリックしたままドラッグします。

- **「クリア」:**

このボタンをクリックすると、編集内容がすべて消去されます。

- **「デフォルト」:**

このボタンをクリックすると、選択したコードの構成音に合わせて、デフォルトのフレットボードを作成、表示します。

- **「ミニ鍵盤」:**

コードネームを選択すると、ミニ鍵盤にコードの構成音が表示されます。また、このミニ鍵盤をクリックすることによってフレットボードを直接編集することもできます。

- **「OK」:**

このボタンをクリックすると、フレットボードライブラリーに加えた変更を保存します。

- **「キャンセル」:**

このボタンをクリックすると、変更する前のライブラリーをそのまま保持します。

＜リズムパターンの作成＞

現在使われているリズムパターンのライブラリーを変更、新規作成、削除する場合に利用します。

「ファイル」メニューの「ライブラリーの編集」サブメニューから「リズムパターンの作成」を選択すると「リズムパターンの作成」ダイアログボックスが表示されます。

リズムグループ:

リズムグループを選択します。



新規グループ：

このボタンをクリックすると「新規リズムグループ名の入力」ダイアログボックスが表示されます。ここで新しいグループ名を入力し、「OK」ボタンをクリックすると新しいグループが作成されます。

リズムパターン：

リズムパターンを選択します。

パターン名：

選択されたパターン名を表示します。

パターンファイル：

このボタンをクリックすると「リズムパターンファイルの選択」ダイアログボックスが表示されます。ここでリズムパターンを選択します。

追加：

このボタンをクリックすると「リズムパターン追加」ダイアログボックスが表示されます。ここでリズムパターン名とパターンファイル名を入力し、「OK」ボタンをクリックすると新しいリズムパターンが作成、追加されます。

削除：

選択されたパターンを削除します。

「OK」：

このボタンをクリックすると、パターンライブラリーに加えた変更を保存します。

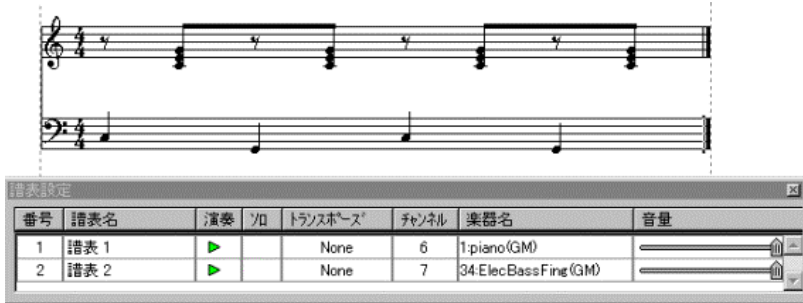
「キャンセル」：

このボタンをクリックすると、変更する前のライブラリーをそのまま保持します。

＜新しいリズムパターンを追加するには＞

1. まず、下図のようにリズムパターンファイルにしようとする楽譜を1小節作成します。作成したいパターンによって、小節数は異なって構いません。

 **パターンファイルの音階は必ずハ長調で編集してください。**



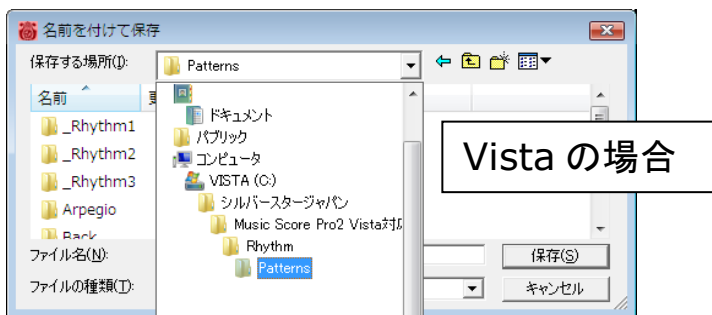
番号	譜表名	演奏	ソロ	トランスポーズ	チャンネル	楽器名	音量
1	譜表 1			None	6	1piano(GM)	
2	譜表 2			None	7	34 ElecBassFing(GM)	

2. 演奏チャンネルを6チャンネル以降に設定します。

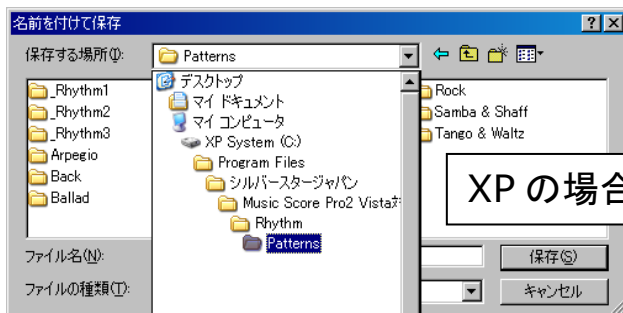
 **パターンファイルに使用できる MIDI チャンネルは、6～10 チャンネルになります。**

3. 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存…」をクリックして「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示します。
4. 「保存する場所」を、Music Score Pro2 がセットアップされているフォルダの中にある「Rhythm¥Patterns」に設定します。「ファイルの種類」はSM2形式に設定します。デフォルトの状態では、以下が該当する保存場所になります。

「C:¥シルバースタージャパン¥Music Score Pro2 Vista 対応版¥Rhythm¥Patterns」

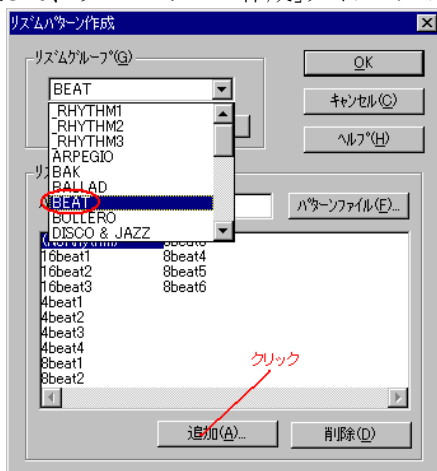


「C:¥Program Files¥シルバースタージャパン¥Music Score Pro2 Vista 対応版¥Rhythm¥Patterns」



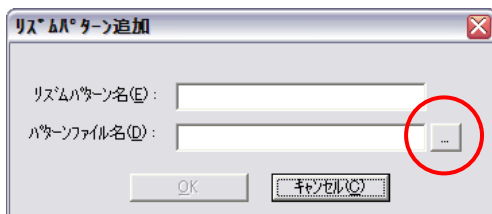
- 「保存」ボタンをクリックした後、「ファイル」メニューの「ライブラリー編集」サブメニューから「リズムパターンの作成」を選択して、「リズムパターン作成」ダイアログボックスを表示します。

- 「リズムグループ」ポップアップメニューから、新しくパターンを追加したいリズムグループを選択します。「新規作成」より、新しくグループを作成することもできます。



- 次に、「追加」ボタンをクリックして表示される「リズムパターン追加」ダイアログボックスで「リズムパターン名」と「パターンファイル名」を設定します。

下図の赤丸で囲ったボタンを押すと「リズムパターンの選択」ダイアログボックスが開きますので、ここで先ほど保存したファイルを選択します。

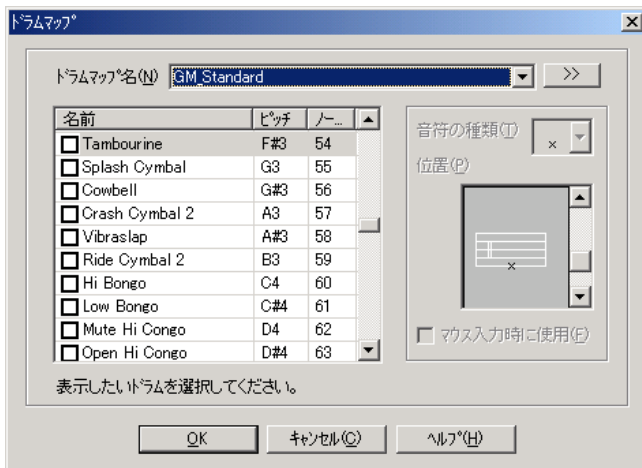


- 「OK」ボタンをクリックすると「リズムパターンの選択」ウィンドウに、追加したリズムパターン名が現れます。もう一度「OK」をクリックすると、「リズムパターンの選択」ウィンドウに新しくパターンが追加されたことが確認できます。
- このリズムパターンを選択して必要な位置に入力します。リズムパターンの入力方法は62ページを参照してください。

<ドラムマップ>

現在使われているドラムマップのライブラリーを変更、新規作成、削除する場合に利用します。

「ファイル」メニューの「ライブラリーの編集」サブメニューから「ドラムマップ」を選択すると「ドラムマップ」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスではドラム譜になる譜表でどのようなドラムリストを使用するか、またドラムリストの各ドラムをどのピッチに対応させ、また、そのドラムの演奏をどの音符で記譜するかを設定します。



- **ドラムマップ名：**
ドラムリストと該当する情報の入ったテーブルを指定します。
- **ドラムリスト：**
使用するドラムをチェックして選択し、そのドラムに対応するピッチを設定します。
- **マウス入力時に使用：**
同一の五線上に複数の楽器(ドラム)が割り当てられた場合、入力において優先させたいドラムを設定します。
- **音符の種類：**
選択したドラムを、どの音符で記譜するかを設定します。
- **位置：**
選択したドラムを、どの位置に記譜するかを設定します。

● **メニューボタン** :

ドラムテーブルを管理するメニューが表示されます。



- ✓ **ドラムテーブルの新規作成:**
新しいドラムテーブルを作成します。
- ✓ **削除:**
選択されているドラムテーブルを削除します。
- ✓ **名前変更:**
選択されているドラムテーブルの名前を変更します。
- ✓ **コピー:**
選択されているドラムテーブルをコピーして、新しいドラムテーブルを作成します。
- ✓ **保存:**
選択されているドラムテーブルの変更内容を保存します。

以上の項目を設定し「OK」ボタンをクリックすると変更が適用されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、ドラム譜の表記変更は取り消されます。

ドラムマップの設定方法については28ページ以降の「ドラム譜への入力」を参照してください。

ヘッダー/フッター編集

このコマンドを選択すると、作成中の楽譜ページのヘッダーとフッターを編集することができます。

「ファイル」メニューの「ヘッダー/フッター編集」を選択すると、「ヘッダー/フッター編集」ダイアログボックスが表示されます。



- 「ヘッダー1」、「ヘッダー2」タブ：
楽譜ページの上に挿入されるヘッダー1、ヘッダー2を編集します。
- 「フッター1」、「フッター2」タブ：
楽譜ページの下に挿入されるフッター1、フッター2を編集します。
- テキスト：
挿入したいヘッダー、フッターのテキストを編集します。
- ページ番号挿入：
楽譜ページにページ番号を挿入する時にこのボタンをクリックします。
- 日付挿入：
楽譜ページに日付を挿入する時にこのボタンをクリックします。
- 時間挿入：
楽譜ページに時間を挿入する時にこのボタンをクリックします。
- フォント：
表示されるテキストのフォントを設定します。
- 奇/偶ページ切り替え：
この項目は左、右ボタンを選択した場合に有効になります。「左」ボタンを選択し、この項目をチェックするとテキストは奇数ページでは左に、偶数ページでは右に挿入されます。

- **開始番号:**
スタートページに挿入するページ開始番号を入力します。
- **スタートページ:**
ヘッダー、フッターを挿入したいページのスタート番号を入力します。

楽譜情報

楽譜ファイルに楽譜のタイトル、作詞、作曲、編曲、著作権、日付、コメントなどの楽譜情報を入力する場合に利用するメニューです。

「ファイル」メニューの「楽譜情報」をクリックすると、「楽譜情報」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで楽譜に関する情報を入力・表示します。ここで入力された内容は楽譜画面には表示されません。

The dialog box titled '楽譜情報' (Musical Score Information) has a blue header bar with a close button (X). It contains several input fields on the left and three buttons on the right. The input fields are labeled as follows:

- タイトル(T): ふじの花束
- 作詞(W):
- 作曲(P):
- 編曲(E):
- 著作権(Y):
- 日付(D):
- コメント(M):

 The buttons on the right are:

- OK
- キャンセル(C)
- ヘルプ(H)

- **タイトル:** 楽譜のタイトルを入力します。
- **作詞:** 作詞者の名前を入力します。
- **作曲:** 作曲者の名前を入力します。
- **編曲:** 編曲者の名前を入力します。
- **著作権:** 著作権に関する内容を入力します。
- **日付:** 編集した日付を入力します。
- **コメント:** 楽譜に関するその他の情報を入力します。

印刷用紙サイズに合わせる

楽譜を印刷する方式を設定します。

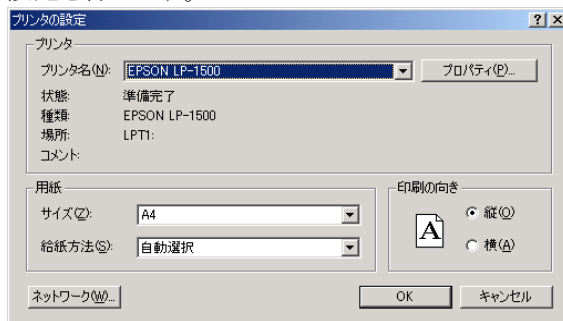
このメニューがチェックされていると、作成中の楽譜を「プリンタの設定」ウィンドウにて選択した印刷用紙サイズに合わせて拡大あるいは縮小して印刷します。

チェックが外れているときは、作成中の楽譜サイズが、設定した印刷用紙サイズより大きい場合に、楽譜を複数ページに分割して印刷します。

 このメニューがチェックされている場合、「設定」メニューの「ファイル設定」で「楽譜の規格」シートにある「楽譜サイズ(幅)」と「楽譜サイズ(高さ)」項目が設定不可能になります。

プリンタの設定

プリンタに関する設定を行います。



※詳しい設定方法は、各プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。

印刷プレビュー

「ファイル」メニューの「印刷プレビュー」を選択すると作成中の楽譜に対し、実際に印刷した時の状態を画面上で確認します。

「ファイル」メニューの「印刷プレビュー」を選択すると印刷プレビュー画面が表示されます。

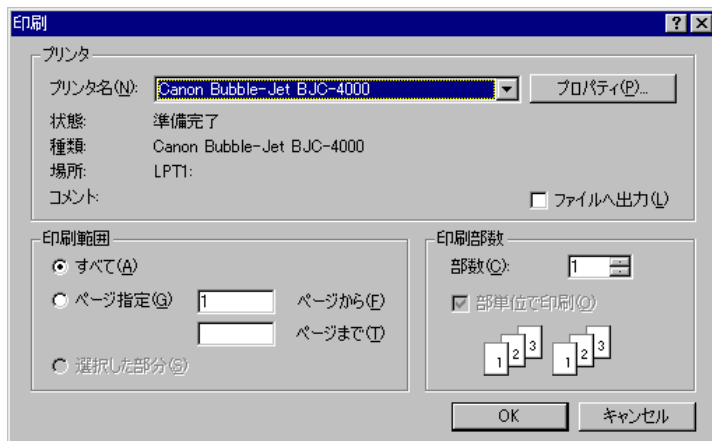


- **印刷:**
このボタンをクリックすると「印刷」ダイアログボックスが表示されます。
- **次ページ:**
次のページを表示します。画面に表示されているページが最後のページの場合は、このボタンは押せなくなります。
- **前ページ:**
前のページを表示します。画面に表示されているページが最初のページの場合は、このボタンは押せなくなります。
- **2ページ:**
このボタンをクリックすると画面に2ページずつ表示します。
- **拡大:**
このボタンをクリックすると、表示される楽譜を拡大します。
- **縮小:**
このボタンをクリックすると、表示される楽譜を縮小します。

印刷

楽譜を印刷するコマンドです。

「ファイル」メニューにある「印刷」を選択すると、「印刷」ダイアログボックスが表示されます。ここでプリンタ名、印刷範囲、印刷部数を設定します。



- **プリンタ名:** 現在パソコンに接続されているプリンタが表示されます。
- **すべて:** 楽譜の全ページを印刷します。
- **ページ指定:** 開始ページと終了ページを指定して印刷します。
- **選択した部分:** 選択した部分だけを印刷します。

 「ファイル」メニューの「印刷用紙サイズに合わせる」がチェックされていると、作成中の楽譜を印刷用紙サイズに合わせて拡大あるいは縮小して印刷します。

最近使ったファイル

最近に開いた順に楽譜ファイルの名前を表示します。

終了

Music Score Pro2 を終了します。

変更を保存していない楽譜ファイルがあれば、保存するかどうかを問い合わせるメッセージボックスが表示されます。

2. 編集メニュー

元に戻す、コピー、貼り付けなど楽譜ファイルを編集する上で必要なコマンドをまとめたメニューです。

編集(E)	表示(V)	音符(N)	小節
元に戻す(U)		Ctrl+Z	
やり直し(Y)		Ctrl+Y	
切り取り(D)		Ctrl+X	
コピー(C)		Ctrl+C	
貼り付け(P)		Ctrl+V	
クリア(D)		Del	
音符所属記号の削除			
ページ選択(M)		Ctrl+A	

- **元に戻す**
直前の操作を取り消して、以前の状態に戻します。Music Score Pro2 では 32 回の操作を戻すことができます。
- **やり直し**
「元に戻す」により取り消した状態を再現します。
- **切り取り**
選択範囲を切り取ってクリップボードに保存します。保存した内容は任意の場所に貼り付けることができます。
- **コピー**
選択範囲をクリップボードにコピーします。
- **貼り付け**
クリップボードの内容を貼り付けます。
 「設定」メニューの「自動間隔調整」がチェックされている場合はカレットの置かれた小節に貼り付けが行われ、チェックされていないとカレットのある位置を起点として内容がそのまま貼り付けられます。
- **クリア**
選択範囲を削除します。「Delete」キーを押すことでもできます。
 音部記号とエンディング、繰り返し記号などの一部の記号は削除できません。これらを削除する場合は「消去ツール」を使用してください。
- **音符所属記号の削除**
選択した範囲の音符に所属している記号を、すべて削除するコマンドです。このコマンドはいくつかの所属記号を一度に削除する場合に便利です。
- **ページ選択**
表示されているページ全体を選択します。

3. 表示メニュー

表示(V)	音符(N)	小節(M)
✓ 標準ハーフ(B)		Shift+F9
✓ ステータスバー(S)		
ツールウィンドウ(W)		
描き直し(D)		Ctrl+R
ハンドル(Q)		Alt+C
✓ リズム(T)		Alt+R
✓ MIDI イベント(E)		
✓ ルーラー(R)		
✓ ページライン(P)		
拡大縮小(Z)		

- **標準ツールバー**

標準ツールバーの表示、非表示を切り替えます。

- **ステータスバー**

ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。

- **ツールウィンドウ**

入力ツールバーの各種パレットと書式バー、コードネームの選択ウィンドウ、リズムの選択ウィンドウ、プレイコントロールウィンドウ、譜表設定ウィンドウ、音声録音ツールバーの表示、非表示を切り替えます。

- **描き直し**

編集集中に音符や記号がずれてきちんと表示されない場合があります。その際、このコマンドを選択すると楽譜を再描画します。

- **ハンドル**

「表示」メニューの「ハンドル」をマウスでクリックするか、[Alt+C]キーを押すとハンドルが表示/非表示されます。

 Music Score Pro2 ではタイ、スラーのようにハンドル位置があいまいな記号に関してのみ、このコマンドによってハンドルが表示されます。

- **リズム**

楽譜にリズムパターン名を表示/非表示します。リズムパターン名は「リズムの選択」ウィンドウが現れている状態でいつも表示します。

- **MIDI イベント**

楽譜に「MIDI イベント」を表示/非表示します。

- **ルーラー**

「表示」メニューの「ルーラー」をマウスでクリックすると楽譜に水平、垂直方向のルーラーを表示/非表示します。

- **ページライン**

楽譜のページラインを表示/非表示します。

- **拡大縮小**

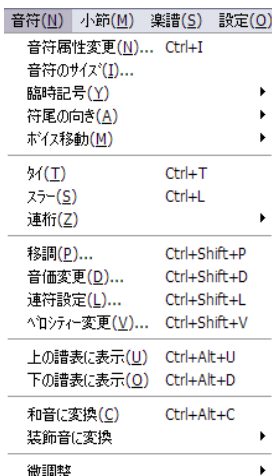
表示したい倍率をマウスで選択して楽譜画面のサイズを拡大縮小します。100%、200%の場合は各[Ctrl+Shift+1][Ctrl+Shift+2]キーを押すことによっても表示されます。「画面に合わせる」または[Ctrl+Shift+Z]キーを押すと、楽譜を画面に合わせて表示します。

4. 音符メニュー

音符の編集に関連するいろいろなコマンドをまとめたメニューです。

-  音符メニューのコマンドを実行するためには、あらかじめ対象となる音符を選択しておく必要があります。

音符属性変更



このコマンドを選択すると、「音符属性変更」ダイアログボックスが表示されます。音符棒の長さ、臨時記号との間隔、符頭・休符の形など音符の属性を変更できます。



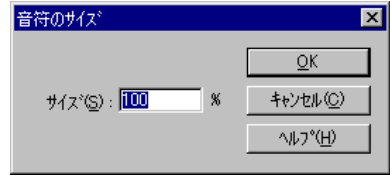
- **音符棒の長さ**
音符棒の長さを変更できます。
- **符頭の形状設定**
符頭の形を変えることができます。
- **音符棒の接続**
音符棒と符頭の接続位置を変えることができます。
- **休符形状設定**
休符の形を変えることができます。
- **不完全連符の向き**
不完全連符の左右の向きを変えることができます。

-  「音符棒の接続」項目は「符頭の形状設定」項目がチェックされている状態で  に設定されている場合のみ有効になります。

音符のサイズ

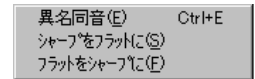
音符のサイズを変更するコマンドです。「音符」メニューの「音符のサイズ」を選択すると「音符のサイズ」ダイアログボックスが表示されます。

サイズ： 音符の表示サイズをパーセンテージで指定します。



臨時記号

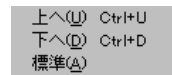
「音符」メニューの「臨時記号」を選択すると選択した音符を異名同音またはシャープ・フラット付きの同音に変更することができます。このコマンドを選ぶと、下のようなサブメニューが表示されます



- **異名同音**
選択した音符を異名同音に変換します。
- **シャープをフラットに**
選択した音符の内、シャープの付いた音符をフラットの付いた音符に変換します。
- **フラットをシャープに**
選択した音符の内、フラットの付いた音符をシャープの付いた音符に変換します。

符尾の向き

「音符」メニューの「符尾の向き」を選択すると選択した音符の符尾の向きを変更します。このコマンドを選ぶと、右図のサブメニューが表示されます。



<符尾の向きを変更するには>

1. 符尾の向きを変更しようとする音符を選択します。
2. 「符尾の向き」コマンドのサブメニューより、どれかひとつを選択します。

ボイス移動

「音符」メニューの「ボイス移動」を選択すると、選択した音符を任意のボイスへ移動します。このコマンドを選ぶと、右図のサブメニューが表示されます。

ボイス1へ	Ctrl+1
ボイス2へ	Ctrl+2
ボイス3へ	Ctrl+3
ボイス4へ	Ctrl+4
ボイス5へ	Ctrl+5
ボイス6へ	Ctrl+6
ボイス7へ	Ctrl+7
ボイス8へ	Ctrl+8

<他のボイスへ移動するには>

1. ボイスを移動しようとする音符を選択します。
2. 「ボイス移動」コマンドのサブメニューから、移動先のボイスを選択します。

タイ

ふたつ以上の同じピッチの音符をタイで結びます。

スラー

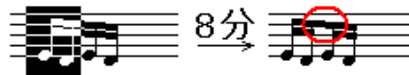
選択した範囲の音符をスラーで結びます。

連桁

「音符」メニューの「連桁」を選択すると選択した音符を連桁にします。このコマンドを選ぶと、右のようなサブメニューが表示されます。

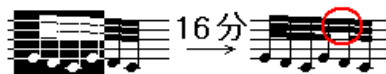
- **解除**
選択した範囲の音符の連桁をはずし、個別の音符にします。
- **グループ**
選択した範囲の音符を連桁にします。
- **拍子通りに**
選択した範囲の音符を小節の拍子通りに連桁にします。
- **8分サブグループ**
連桁で結ばれた音符をもう一度8分に結びます。

解除(Q)	Ctrl+Q
グループ(G)	Ctrl+G
拍子通りに(B)	Ctrl+B
8分 サブグループ(S)	Ctrl+M
16分 サブグループ	
32分 サブグループ	
トレモロ8分(O)	
トレモロ16分(O)	
トレモロ32分(O)	
トレモロ64分(O)	



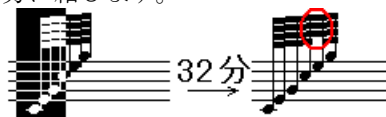
- **16 分サブグループ**

連桁で結ばれた音符をもう一度 16 分に結びます。



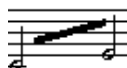
- **32 分サブグループ**

連桁で結ばれた音符をもう一度 32 分に結びます。



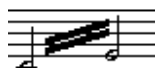
- **トレモロ 8 分**

選択した 2 つの音符を 8 分トレモロに結びます。



- **トレモロ 16 分**

選択した 2 つの音符を 16 分トレモロに結びます。



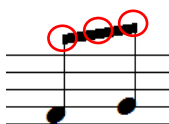
- **トレモロ 32 分**

選択した 2 つの音符を 32 分トレモロに結びます。



- **トレモロ 64 分**

選択した 2 つの音符を 64 分トレモロに結びます。



マウスポインタを連桁の両端、または中央に合わせると、ポインタの形が上下の矢印に変化します。この状態でマウスをクリックして上下にドラッグすることで、連桁の高さを自由に変えることができます。

また、「Shift」キーを押しながら連桁の両端にマウスポインタを合わせると、今度はポインタの形が左右の矢印に変化します。この状態でマウスをクリックして左右にドラッグすることで、連桁の端を延ばすことができます。



移調

選択した範囲の音符を移調します。「音符」メニューの「移調」を選択すると「移調」ダイアログボックスが表示されます。

- **ダイアトニック**
全音系を選択するためのボタンです。
- **クロマチック**
半音系を選択するためのボタンです。
- **上へ**
上向きに移調するためのボタンです。
- **下へ**
下向きに移調するためのボタンです。
- **移調量**
変更するピッチインターバルを選択します。
- **オクターブ**
移調するオクターブ値を選択します。



音価変更

選択した音符の長さ、演奏の長さを変更します。

- **音符の長さ変更**
譜面上で選択した音符の長さを変更できます。
- **付点をつける**
この項目をチェックすると、付点音符、または複付点音符を選択できます。
- **演奏の長さ変更**
選択した音符の演奏の長さを変更できます。



連符設定

選択した音符に必要な種類、形の連符に設定します。

- **連符の種類：**

連符の種類を選択します。

- **標準：**

標準の連符を選択します。

- **その他：**

任意の連符を設定できます。

- **接続形状：**

連符の接続形状を選択します。

- **2番目の数字を表示：**

連符を「3:2」のような形で表示します。



ベロシティー変更

選択した範囲の音符のベロシティーを変更します。

- **すべての値を設定**

選択範囲内の音の強弱を一律に設定します。

- **徐々に変更**

クレッシェンド、デクレッシェンドのように音をだんだん大きく、または小さくする場合に利用します。

- **元の値の○%で設定**

既に強弱を設定した範囲を全体的に大きく、または小さくしたい場合に利用します。

- **すべての値に○を加える**

現在の音の強さに、設定した値を加えます。

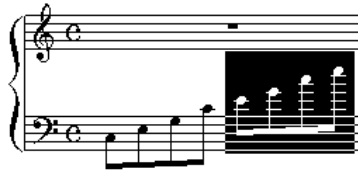


上の譜表に表示

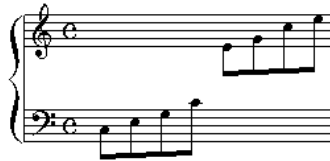
ピアノ譜などで譜表をまたがる音符を記譜する際に利用します。

「音符」メニューの「上の譜表に表示」を選択すると、選択した音符を上上の譜表に表示します。上の譜表に表示した音符を元に戻したい場合は、その音符を選択し「下の譜表に表示」コマンドを実行します。

1. 上の譜表に表示しようとする音符をドラッグで囲みます。



2. 「音符」メニューの「上の譜表に表示」コマンドをクリックするか、「Ctrl+Alt+U」キーを押すと、選択した音符が上の譜表に表示されます。



ピアノ譜などで譜表をまたがる音符を記譜する際に利用します。

下の譜表に表示

「音符」メニューの「下の譜表に表示」を選択すると、選択した音符を下下の譜表に表示します。下の譜表に表示した音符を元に戻したい場合は、その音符を選択し「上の譜表に表示」コマンドを実行します。

1. 下の譜表に表示しようとする音符をドラッグで囲みます。



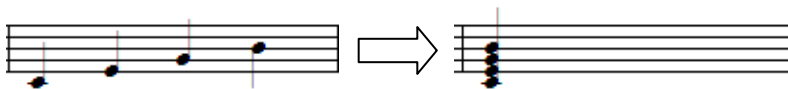
2. 「音符」メニューの「下の譜表に表示」コマンドをクリックするか、「Ctrl+Alt+D」キーを押すと、選択した音符が下の譜表に表示されます。



和音に変換

複数の単音符を1つの和音に変換する場合に利用します。

1. 和音に変換したい複数の単音符を選択し、反転状態にします。
2. 「音符」メニューから、「和音に変換」コマンドを選びます。

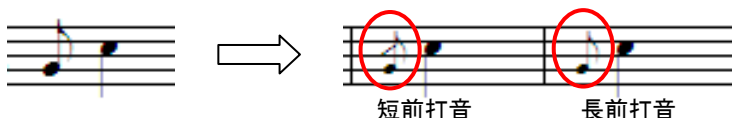


装飾音に変換

入力された音符を、短前打音と長前打音の2種類の装飾音に変換できます。以下のサブメニューが表示されます。

短前打音に変換(Q) Ctrl+Alt+G
長前打音に変換(R) Shift+Alt+G

1. 装飾音に変換したい音符を選択します。
2. 「音符」メニューから、「装飾音に変換」を選択して、サブメニューより該当する項目を選択します。



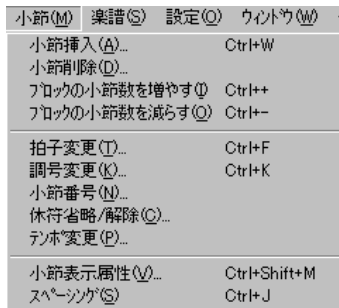
微調整

選択した音符を微調整します。

- 上へ： 選択した音符を半音上げます。
- 下へ： 選択した音符を半音下げます。
- 左へ： 選択した音符を左へ移動します。
- 右へ： 選択した音符を右へ移動します。

5. 小節メニュー

小節の挿入、削除、属性やテンポ、拍子、調号などの小節に関するコマンドをまとめたメニューです。



小節挿入

譜表に新しい小節を挿入するコマンドです。「小節」メニューの「小節挿入」を選択すると、「小節挿入」ダイアログボックスが表示されます。

- **挿入する小節数：**
挿入する小節数を決めます。
- **小節を挿入する譜表：**
小節を挿入する譜表をチェックして設定します。



- **すべての譜表に挿入：** 小節をすべての譜表に挿入する場合チェックします。
- **挿入位置：** 小節を指定して挿入する位置を設定します。

小節削除

選択した小節を削除します。「小節」メニューの「小節削除」を選択すると、「小節削除」ダイアログボックスが表示されます。

- **削除範囲：**
削除する小節の範囲を決めます。
- **小節を削除する譜表：**
複数の譜表がある場合その中でどの譜表の小節を削除するかをチェックします。
- **すべての譜表で削除：**
小節をすべての譜表から削除する場合にチェックします。



ブロックの小節数を増やす

「小節」メニューの「ブロックの小節数を増やす」を選択すると、カーソルが置かれているブロックに対して、次のブロックより1小節繰り上げることができます。

<ブロックの小節数を増やすには>

1. 小節を増やしたいブロックの譜表に、カレットを置きます。
2. メニューから「ブロックの小節数を増やす」コマンドを選択します。
そうすると、カレットが置かれているブロックの右端に、次のブロックの左端から小節が一つ繰り上がります。



点線で囲まれた小節が...



上のブロックの右端に繰り上がります。

ブロックの小節数を減らす

「小節」メニューの「ブロックの小節数を減らす」を選択すると、カレットが置かれているブロックから1小節減らし、次のブロックに繰り越すことができます。

<ブロックの小節数を減らすには>

1. 小節数を減らしたいブロックの譜表に、カレットを置きます。
2. メニューから「ブロックの小節数を減らす」コマンドを選びます。
そうすると、カレットが置かれているブロックの右端の小節を、次のブロックの左端に繰り越します。



下のブロックの左端に繰り越されます。

拍子変更

小節範囲を決めて拍子を変更します。「小節」メニューの「拍子変更」を選択すると、「拍子変更」ダイアログボックスが表示されます。

- **小節範囲**

変更する小節範囲を決めます。

- **基本**

- 表示:
基本拍子を表示・非表示します。
- 括弧:
基本拍子に括弧を付けます。



変更する拍数を入力し、その下にあるポップアップメニューから拍の音符種類を選択します。

- **混在**

- 表示: 混在拍子を表示・非表示します。
- 括弧: 混在拍子に括弧を付けます。

下にある入力ボックスに混在拍子を入力します。

- **記号で表記**

4/4、2/2 拍子の場合にのみ選択できます。

- **前の譜表の末尾に表示**

各ブロックの先頭小節の拍子を変更するとき、前のブロックの譜表の末尾に拍子を表示します。

📌 「ファイル設定ウィンドウ」の「表示」シート中に『拍子記号の変更時、前の譜表の末尾に表示する』という項目があります。この項目にチェックが入っていないと、「拍子変更」ウィンドウで『前の譜表の末尾に表示』をチェックしても、譜面に反映されません。(122ページを参照)

- **弱起**

弱起の小節を設定する時にチェックします。

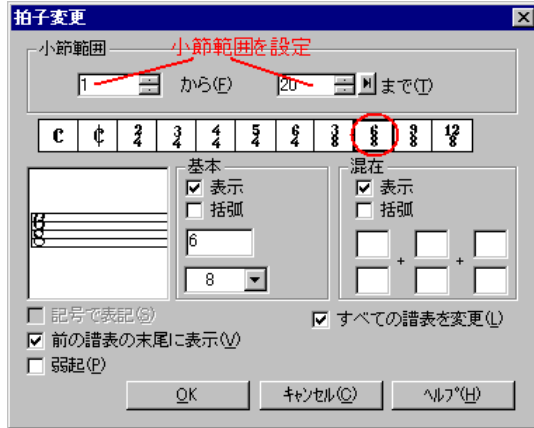
- **すべての譜表を変更**

この項目をチェックすると、すべての譜表について拍子を変更し、チェックを解除すると現在カレットが置いてある譜表の拍子のみ変更します。

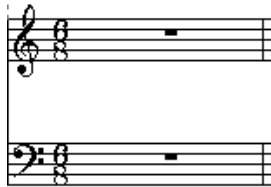
<拍子を変更するには>

任意の拍子を設定するには

1. 拍子を設定する小節範囲を設定します。
2. 次に拍子一覧より、任意の拍子を選択します。図の例では6/8拍子を選択しています。「基本」項目に直接数字を入力することもできます。



3. OK をクリックすると、譜表には 6/8 拍子が表示されます。



<混合拍子を設定するには>

小節範囲を設定した後、「混在」項目の「表示」をチェックし、その下にある入力ボックスに数字を入力します。



< 拍子を記号で表示するには >

「基本」の拍子が 4/4 及び 2/2 の場合は、記号での表記が可能です。記号で表記するには、「記号で表記」項目にチェックを入れます。または、拍子一覧より選択することでも入力が可能です。

調号変更

小節範囲を選択して調号を変更します。「小節」メニューの「調号変更」を選択すると、「調号変更」ダイアログボックスが表示されます。



- **小節範囲**
調号を変更する小節範囲を設定します。
- **音符を移調**
音符を移調する方向を指定します。「コードネームも移調」をチェックすると、音符の移調時に音符に付けているコードネームも移調します。
- **調号を非表示**
選択した小節の調号を隠します。
- **現在の譜表のみ変更**
現在カレットの置かれている譜表の調号だけを変更します。

- **選択した譜表のみ変更**
選択した譜表の調号だけを変更します。
- **すべての譜表を変更**
すべての譜表の調号を変更します。

小節番号

楽譜に小節番号を付けます。
「小節」メニューの「小節番号」を選択すると、「小節番号」ダイアログボックスが表示されます。

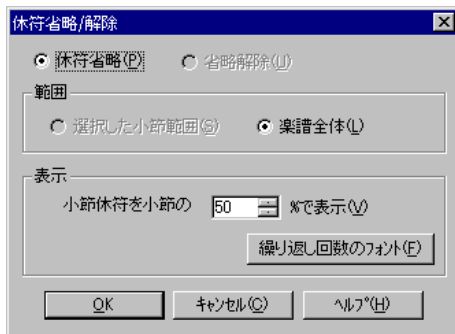
- **番号を貼り付け**
小節に番号を付けます。
- **番号を削除**
小節番号を削除します。
- **表示位置**
小節番号の貼り付け位置を決めます。
- **設定**
小節番号をどのように割り振るかを設定します。



休符省略/解除

休符が連続する小節を省略して表示、またはそれを解除します。「小節」メニューの「休符省略/解除」を選択すると、「休符省略/解除」ダイアログボックスが表示されます。

- **休符省略/省略解除**
休符の省略と解除の、どちらかを選択するボタンです。
- **範囲**
省略/解除を適用する範囲を選択します。
- **表示**
休符省略表示のサイズを設定します。

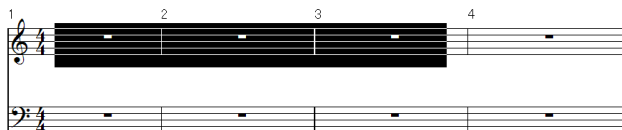


- **繰り返し回数のフォント**

繰り返し回数の文字のフォントを指定します。

＜休符省略の設定方法＞

1. 部分的に休符省略を適用する場合、あらかじめ該当する小節を「選択ツール」で囲んでおきます。楽譜全体に適用する場合は、この操作は必要ありません。



2. 「休符省略/省略解除」ダイアログボックスを表示して「休符省略」を選択します。
3. 「範囲」欄より、休符省略を適用する範囲を選択します。
4. 「表示」欄で、小節休符のサイズを指定します。「繰り返し回数のフォント」ボタンをクリックすると、フォント選択のダイアログボックスが開き、文字記号のフォントを選択できます。
5. 「OK」をクリックすると、以下のように休符が省略して表示されます。



＜省略表示を解除する場合＞

1. 部分的に休符省略を解除する場合、あらかじめ該当する小節を「選択ツール」で囲んでおきます。
2. 「休符省略/省略解除」ダイアログボックスより、「省略解除」を選択します。
3. 「範囲」欄より、休符省略を解除する範囲を選択します。
4. 「OK」をクリックすると、休符の省略が解除されます。

テンポ変更

小節単位でテンポを変更します。
「小節」メニューの「テンポ変更」を選択すると、「テンポ変更」ダイアログボックスが表示されます。

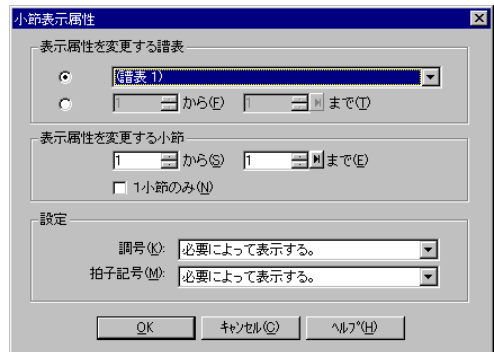
- **すべての値を設定**
選択範囲内のテンポ値を一律に設定します。
- **徐々に変更**
オフセットを指定し、小節単位で徐々に速くまたはゆっくり演奏する場合に利用します。
- **元の値の〇%に設定**
既にテンポ値を設定した範囲を全般的に速くまたはゆっくり演奏したい場合に利用します。
- **すべての値に〇〇を加える**
元々のテンポに、設定したテンポ値を加えます。
- **小節範囲**
変更する小節範囲を設定します。



小節表示属性

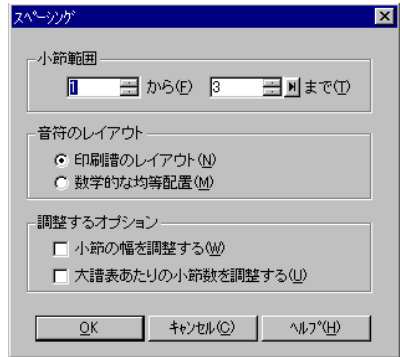
小節単位で調号や拍子記号など表示属性を変更します。
「小節」メニューの「小節表示属性」を選択すると、「小節表示属性」ダイアログボックスが表示されます。

- **表示属性を変更する譜表**
表示属性を変更しようとする譜表を選択します。
- **表示属性を変更する小節**
表示属性を変更しようとする小節を選択します。
- **設定**
調号や拍子記号などの表示属性を設定します。



小節内で音符の間隔を調整する場合に利用します。

「小節」メニューの「スペーシング」を選択すると、「スペーシング」ダイアログボックスが表示されます。



● 小節範囲

間隔を調整したい小節の範囲を設定します。

● 音符のレイアウト

- 印刷譜のレイアウト : 音符の間隔を印刷譜に合わせて調整します。
- 数学的な均等配置 : 音符の間隔を既定値に合わせてます。

 小節内の音符がその小節に設定された拍数より多い場合、余った音符は小節外にはみ出すので注意してください。

● 調整するオプション(ブロック全体を選択した場合にアクティブになります。)

- 小節の幅を調整する : この項目をクリックすると、ブロック内での音符の頻度によって小節幅を調整します。



- ブロックあたりの小節数を調整する : この項目をクリックすると、ブロック内での小節の頻度によって小節数を調整します。

6. 楽譜メニュー

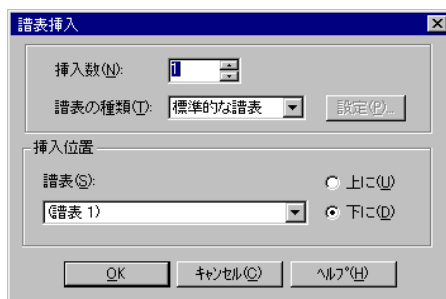
譜表やページの位置、楽譜のレイアウト、編成などの楽譜に関するコマンドをまとめたメニューです。



譜表挿入

ブロックに新しい譜表を挿入します。「楽譜」メニューの「譜表挿入」を選択すると、「譜表挿入」ダイアログボックスが表示されます。

- **挿入数**
挿入したい譜表の数を設定します。
- **譜表の種類**
挿入する譜表の種類を設定します。



Music Score Pro2 では譜表の種類を次のように区分します。

- **標準的な譜表**
5つの線からなる普通の譜表です。

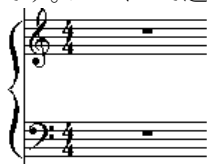


- **リズム譜**
リズムを記譜するための譜表です。音符は線上に置かれ、音符棒は上向きになります。



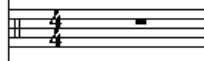
➤ ピアノ譜

ピアノ、アルファなどの譜表です。ブレイスで連結されます。



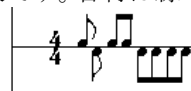
➤ ドラム譜

ドラムセットなどの譜表です。



➤ 一線譜

リズムを表記するための譜表です。音符は線の上、中心、下に置かれます。



➤ タブ譜

タブ譜を表記するための譜表です。タブ譜に表示される数字は線の中心に置かれます



● 「設定」

挿入するドラム譜、タブ譜の各種設定を行います。

● 挿入位置

譜表の挿入位置を設定します。

● 譜表指定コンボボックス

デフォルトでは現在カレットの置かれている譜表が指定されます。これと上/下を指定するボタンと合わせて、どの位置に譜表を挿入するかを設定します。

● 「OK」

このボタンをクリックすると、譜表を挿入し楽譜のレイアウトを全て更新します。

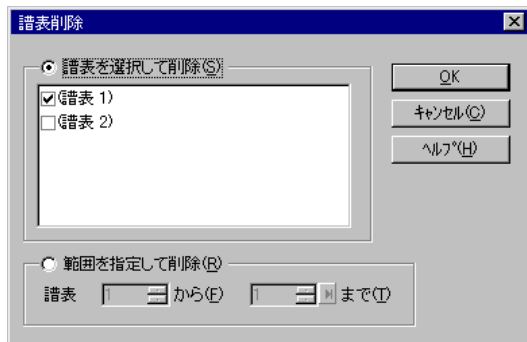
● 「キャンセル」

このボタンをクリックすると、譜表を挿入せず元の楽譜に戻ります。

譜表削除

指定する譜表を楽譜から削除します。

「楽譜」メニューの「譜表削除」を選択すると、「譜表削除」ダイアログボックスが表示されます。



- **譜表を選択して削除**
削除したい譜表にチェックを入れます。デフォルトではカレットが置かれた譜表がチェックされています。
- **範囲を指定して削除**
削除したい譜表の範囲を指定します。
- **「OK」**
このボタンをクリックすると、譜表を削除し楽譜のレイアウトを更新します。
- **「キャンセル」**
このボタンをクリックすると、譜表を削除せず元の楽譜に戻ります。

スプリット・ノート

既存の譜表から指定した音以下の音符を分離して、新しい譜表にコピーまたは移動します。

「楽譜」メニューの「スプリット・ノート」を選択すると、「スプリット・ノート」ダイアログボックスが表示されます。



- **譜表**
音符を分離する元の譜表を選択します。新しい譜表はここで選択した譜表の下に挿入されます。
- **移動する音符**
 - **〇〇以下の音符を移動**
分離する音の基準値を設定します。
 - **ボイス単位で移動**
チェックされているボイスの音符を全て新しい譜表に移動します。ボイス設定はそのまま保持されます。
- **音部記号**
新しく挿入する譜表の音部記号を選択します。
- **ピアノ譜を作成**
- 元の譜表と新しい譜表をブレイスで連結した大譜表(ピアノ譜)を作成します。この場合、元の譜表には高音部記号、新しい譜表には低音部記号が付けられます。
- **コピーする**
元の譜表の音符をコピーする場合にチェックします。
- **「OK」**
設定を有効にして、楽譜のレイアウトを更新します。
- **「キャンセル」**
元の楽譜に戻ります。

譜表属性

譜表の種類と音部記号の変更、および譜表単位での音部記号、拍子記号、調号を表示/非表示することができます。「楽譜」メニューの「譜表属性」を選択すると、「譜表属性」ダイアログボックスが表示されます。

- **譜表**

属性を変更したい譜表を選択します。変更しようとする譜表がオシアの場合、この項目にはオシア譜の名が表示されます。

- **表示倍率**

譜表の表示倍率を設定します。50%～100%間で任意に設定できます。

- **音部記号を隠す**

この項目をチェックすると、選択した譜表の音部記号を隠します。

- **調号を隠す**

この項目をチェックすると、選択した譜表の調号を隠します。この状態では「小節表示属性」ダイアログボックスで、調号を「常に表示する」と設定されていても調号が表示されません

- **拍子記号を隠す**

この項目をチェックすると、選択した譜表の拍子記号を隠します。

- **譜表の種類**

選択された譜表の種類を変更できます。

ドラム譜の設定 → 28ページ

タブ譜の設定 → 32ページ

- **はじめの音部**

譜表の最初の位置にある音部記号を変更します。音部記号入力パレットで音部記号を選択し譜表の最初の位置をクリックしても、同様の変更ができます。

- **「OK」**

設定を有効にして楽譜のレイアウトを更新します。

- **「キャンセル」**

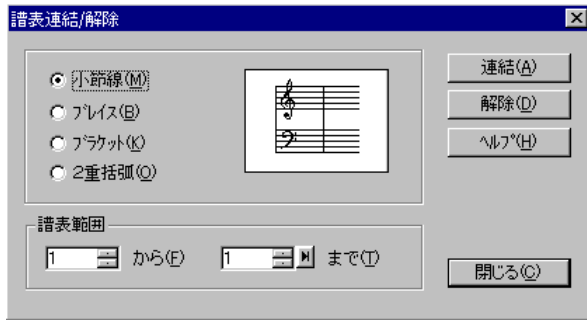
元の楽譜に戻ります。



譜表連結/解除

複数の譜表をブレイス、ブラケットで連結、または解除します。

「楽譜」メニューの「譜表連結/解除」を選択すると「譜表連結/解除」ダイアログボックスが表示されます。



- **小節線**
譜表間の小節線を連結または解除します。
- **ブレイス**
譜表をブレイスで連結/解除します。
- **ブラケット**
譜表をブラケットで連結/解除します。
- **2重括弧**
譜表を2重ブラケットで連結/解除します。
- **譜表範囲**
連結/解除する譜表の範囲を譜表番号で設定します。
- **「連結」**
このボタンをクリックすると、譜表を連結します。
- **「解除」**
このボタンをクリックすると、連結を解除します。この時、譜表の範囲を正しく指定しないと、譜表の連結/解除が正常に行えない場合があります。
- **「閉じる」**
楽譜ウィンドウに戻ります。

譜表を隠す

選択した譜表を隠します。

1. ツールバーより「選択」ボタンをクリックします。
2. 隠したい譜表をクリックして、カレットをその譜表の小節に表示します。
3. 「楽譜」メニューの「譜表を隠す」をクリックします。

譜表の表示

隠した譜表をすべて表示します。

1. ツールバーより「選択」ボタンをクリックします。
2. 隠した譜表があるブロックの任意の小節をクリックします。この時カレットはその小節に移動します。そのブロックに隠された譜表があれば、「楽譜」メニューの「譜表の表示」コマンドが選択可能になります。
3. 「譜表の表示」コマンドをクリックします。

ページ挿入

楽譜に新しいページを挿入します。
「楽譜」メニューの「ページ挿入」を選択すると「ページ挿入」ダイアログボックスが表示されます。

- **ページ挿入数**

新しく挿入するページ数を設定します。

- **空白ページ挿入**

この項目をチェックすると、五線のない白紙ページが挿入されます。楽譜の表紙などを編集する際に利用できます。

- **挿入位置**

新しく挿入する位置を指定します。指定したページの前(または後)に新しいページが挿入されます。新しく挿入されるページのレイアウトは、指定したページと同様になります。

- **「OK」**

このボタンをクリックすると、ページを挿入します。この時、カレットは新しく挿入されたページに移動します。

- **「キャンセル」**

このボタンをクリックすると、ページを挿入せず元の楽譜に戻ります。



ページ削除

指定したページを削除します。
「楽譜」メニューの「ページ削除」を選択すると「ページ削除」ダイアログボックスが表示されます。

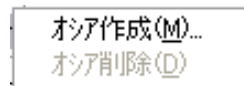
- **現在のページのみ削除**
この項目をクリックすると、カレットの置かれたページだけを削除します。
- **範囲削除 (ページ番号)**
削除したいページの範囲を指定します。
- 「OK」
このボタンをクリックすると、ページを削除します。
- 「キャンセル」
このボタンをクリックすると、ページを削除せず元の楽譜に戻ります。



オシア

オシアを作成するコマンドです。
このコマンドには次のサブグループがあります。

- **オシア作成**
「楽譜」メニューにある「オシア」コマンドのサブメニューより「オシア作成」ダイアログボックスが表示されます。



- **元になる小節**
オシアを作成する上で元になる譜表と小節を指定します。

➤ **表示倍率**

オシアの表示倍率を設定します。50%～100%間で任意に設定することができます。

➤ **音部記号を隠す**

この項目をチェックすると、作成するオシアの音部記号が表示されません。

➤ **調号を隠す**

この項目をチェックすると、作成するオシアに調号が表示されません。

➤ **拍子記号を隠す**

この項目をチェックすると、作成するオシアに拍子記号が表示されません。

➤ **左側縦線を書く**

この項目をチェックすると、作成するオシアの左端に小節線を引きます。

➤ **「OK」**

このボタンをクリックすると、オシア譜が作成されます。オシア譜表の左上隅をマウスでドラッグして必要な位置へ移動できます。

➤ **「キャンセル」**

このボタンをクリックすると、オシアを作成せず元の楽譜に戻ります。

● **オシア削除**

カーレットをオシアに置いた状態で「オシア削除」を選択すると、オシアが削除されます。

楽譜 ページレイアウト

楽譜のレイアウトを設定します。

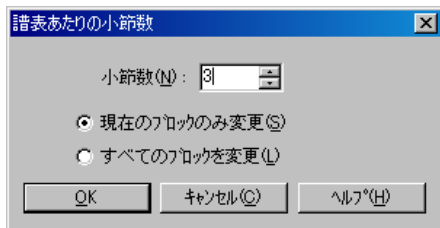
次のサブメニューがあります。



● **譜表あたりの小節数**

譜表の小節数を変更します。

「楽譜」メニューにある「楽譜ページレイアウト」コマンドのサブメニューから「譜表あたりの小節数」を選択すると「譜表あたりの小節数」ダイアログボックスが表示されます。



➤ **小節数**

譜表の小節数を設定します。

➤ **現在のブロックのみ変更**

この項目をクリックすると、カレットの置かれたブロックの小節数だけを変更します。ブロックの小節数を増減するには「小節」メニューの「ブロックの小節数を増やす」、「ブロックの小節数を減らす」を利用する事もできます。

➤ **すべてのブロックを変更**

この項目をクリックすると、すべてのブロックの小節数を変更します。

➤ **「OK」**

このボタンをクリックすると、ブロックの小節数を設定した値に変更します。この際、小節の総数は変わらないので、最後のブロックのレイアウトは必ずしも設定値と同じにならないことに注意してください。

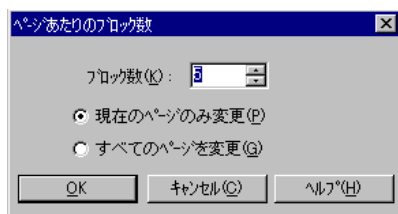
➤ **「キャンセル」**

このボタンをクリックすると、小節数を変更せず元の楽譜に戻ります。

● ページあたりのブロック数

ページのブロック数を変更します。

「楽譜」メニューにある「楽譜ページレイアウト」コマンドのサブメニュー「ページあたりのブロック数」を選択すると「ページあたりのブロック数」ダイアログボックスが表示されます。



➤ **ブロック数**

ページあたりのブロック数を設定します。

➤ **現在のページのみ変更**

この項目をクリックすると、カレットの置かれているページのブロック数だけを変更します。

➤ **すべてのページを変更**

この項目をクリックすると、すべてのページのブロック数を変更します。

➤ 「OK」

このボタンをクリックすると、ページのブロック数を変更します。この際、ページの総数は変わらないので、最後のページに表示されるブロック数は、必ずしも設定値と同じにならないことに注意してください。

➤ 「キャンセル」

このボタンをクリックすると、ページのブロック数を変更せず元の楽譜に戻ります。

編成

譜表、音符などの間隔を一定にして楽譜画面を見やすくします。次のサブメニューがあります。

譜表の既定間隔(S)	Alt+Y
ブロックの既定間隔(B)	Alt+U
ブロックを左のページラインに合わせる(L)	Alt+I
小節幅の均等割付(L)	

● **譜表の既定間隔** : 譜表の間隔を既定値に合わせます。

➤ 現在のページでブロック間の間隔は変更せず、ブロック内の譜表間隔を等間隔にします。この時、譜表間隔は「設定」メニューの「ファイル設定」ダイアログボックスにある「間隔」プロパティシートで「譜表の間」に設定した値になります。「ファイル設定」では楽譜全体、つまりすべてのページに設定されますが、ここでは現在のページだけを変更する事に注意してください。

● **ブロックの既定間隔** : ブロックの間隔を既定値に合わせます。

➤ 現在のブロック内の譜表間隔は変更せず、ブロック間隔を等間隔にします。この時、ブロック間隔は「設定」メニューの「ファイル設定」ダイアログボックスにある「間隔」プロパティシートで「ブロックの間」に設定した値になります。「ファイル設定」では楽譜全体、つまりすべてのページに設定されますが、ここでは現在のページだけを変更する事に注意してください。

● **ブロックを左のページラインに合わせる** : 現在のページで、すべてのブロックを左側のページラインに合わせて整列させます。

● **小節幅の均等割付** : 現在カレットがあるブロック、または選択されたブロック内の楽譜の小節幅を均等割付にします。

7. 設定メニュー

プログラムのファイル全般に関する設定を行います。



MIDI 入出力ポート設定

Music Score Pro2 が使用する MIDI 入出力ポートを選択します。



- **出力ポート**

コンピュータにインストールされている MIDI 出力デバイスの中で

Music Score Pro2 が、プレイバックする際に使用するポートを選択します。

- **入力ポート**

MIDI 機器による入力時に使用するポートを選択します。

- **「OK」**

このボタンをクリックすると、Music Score Pro2 は指定したポートを開きデバイスを確認します。Music Score Pro2 が起動している間に他のアプリケーションはこのデバイスを利用できません。

- **「キャンセル」**

このボタンをクリックすると、MIDI ポートを変更せずにダイアログボックスを閉じます。

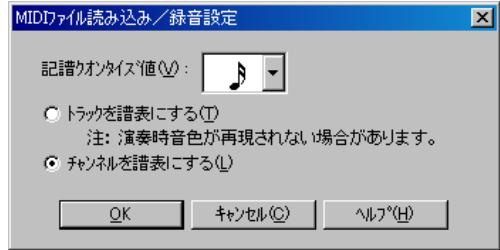
MIDI ファイル読み込み/録音設定

Music Score Pro2 が MIDI ファイルを読み込む際に必要なオプションを設定します。

- **記譜クオンタイズ値**

MIDI ファイルを読み込んで記譜する際の、音符の最小値を指定します。ここで指定した音符より

短い音符は正確に記譜されませんので、注意してください。また、クオンタイズ値はリアルタイムレコーディングの結果にも反映されます。



 **記譜クオンタイズ値を8分音符に設定した場合、読み込みたい MIDI ファイルに16分音符があったとしても、それらはすべて8分音符で記譜されてしまいます。例えば16分音符四つの連打は、8分音符二つにまとまってしまいます。**

- **トラックを譜表にする**

フォーマット1の MIDI ファイルは、ひとつのファイルに複数のトラックを持っています。この項目をクリックすると、トラックごとに譜表を分けて記譜します。Music Score Pro2 で保存した MIDI ファイルを読み込む場合は、このオプションを使用することをお勧めします。フォーマット0の MIDI ファイルをこのオプションで読み込むと、音色が変わる場合があります。

- **チャンネルを譜表にする**

フォーマット0の MIDI ファイルは、すべてのチャンネルのデータが、ひとつのトラックにまとまっています。この項目をクリックすると、チャンネルごとに譜表を分けて記譜します。フォーマット0の MIDI ファイルを読み込む時は、このオプションを使用することをお勧めします。

- **「OK」**

このボタンをクリックすると、設定を有効にします。それ以後は MIDI ファイルを読み込む場合に、このオプションが適用されます。

- **「キャンセル」**

このボタンをクリックすると、設定を変更せずにダイアログボックスを閉じます。

メトロノーム音設定

MIDI キーボードを使って楽譜を録音する際に出すメトロノーム音の設定を行います。

- **チャンネル**
メトロノームを再生するチャンネルを設定します。
- **ピッチ**
メトロノーム音のピッチを設定します。
- **強弱**
メトロノーム音の強弱を設定します。



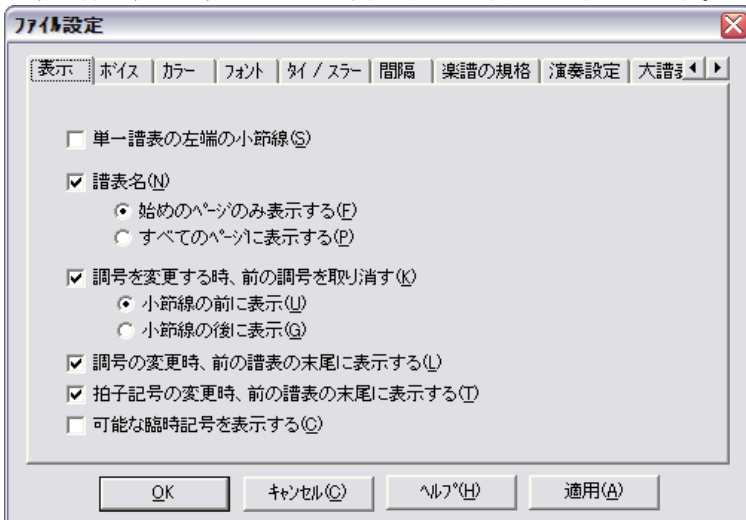
- MIDI 音源に「Microsoft GS Wavetable (SW) Synth」を使用している場合は、上図の設定において「タンバリン」の音がメトロノーム用の音として鳴ります。

ファイル設定

楽譜全体に関するいろいろな設定を行います。

- 設定後、ファイルを保存すると、用紙サイズや譜表の各種設定の規定値を保存できます。また、新規作成する楽譜の規定値にもそのまま作用します。

- **表示**
楽譜全体に関して次の項目に対する表示/非表示を設定します。



➤ **単一譜表の左端の小節線**

この項目は譜表の数が1つの時だけ有効です。この項目をチェックすると、譜表の左端に小節線が引かれます。

➤ **譜表名**

この項目をチェックすると、次のふたつの項目がアクティブ表示されます。

◇ **始めのページのみ表示する**

このボタンをクリックすると、譜表名を1ページ目にだけ表示し、2ページ目からは表示しません。

◇ **すべてのページに表示する**

このボタンをクリックすると、譜表名をすべてのページに表示します。

➤ **調号を変更する時、前の調号を取り消す**

調号の変更される部分にナチュラル記号を付けます。



ホ長調から二長調に変更した場合の表記例。
ナチュラル記号は「小節線の後に表示」に設定。

➤ **小節線の前に表示**

変更される部分のナチュラル記号を、小節線の前に付けます。

➤ **小節線の後に表示**

変更される部分のナチュラル記号を、小節線の後に付けます。

➤ **調号の変更時、前の譜表の末尾に表示する**

各ブロックの先頭小節で調号の変更があった場合に、その調号を前の譜表の末尾にも表示します。

➤ **拍子記号の変更時、前の譜表の末尾に表示する**

各ブロックの先頭小節で拍子記号の変更があった場合に、その拍子記号を前の譜表の末尾にも表示します。



「前の譜表の末尾に表示する」にチェックを入れた場合の、調号と拍子記号の表示例

➤ 可能な臨時記号を表示する

ハ長調、およびイ短調以外の調に設定された譜表にて、下図のように、入力された音符に対して常に臨時記号を表示することができます。



※見方によっては混乱を招く恐れがあるので、注意してください。

● ボイス

楽譜全体に関してボイスごとに符尾の向きと休符の表示を設定します。



➤ 音符尾の向き

ボイスごとの音符尾の向きを設定します。ここでの設定は「適用」をクリックした後より入力される音符から反映されます。

➤ 音符を表示

この項目のチェックを外すと、該当するボイスの音符が表示されません。

➤ 休符を表示

この項目のチェックを外すと、該当するボイスの休符が表示されません。

- 📌 小節に音符が入力されない場合に表示されている全音休符は、ボイス8に属しています。この休符を非表示にするには、ボイス8の休符チェックを外してください。
- 📌 チェックを外したボイスの音符または休符は、コントロールパネルのボイス設定ボタンで、該当するボイスが選択された場合にのみ表示されます。

● カラー

楽譜の要素ごとに表示させたいカラーを設定します。
この設定は楽譜全体の要素に関するものです。

 個別にカラーを設定するには「入カツールバー」で「カラー」を参照してください。



➤ 状態

楽譜に表示されるカラーをプレビューします。

➤ 「既定値として設定」

このボタンをクリックすると、楽譜要素のカラーをデフォルト値に設定します。

➤ 項目

リストにある楽譜要素のカラーを設定します。

➤ ボイス1～8

各ボイスをチェックしてカラーを設定すると、そのボイスにある音符、休符がそのカラーに設定されます。設定されたボイスのカラーは、ボイスタブで「すべて」を選択した時に表示されます。

➤ 非設定ボイス

現在編集していないボイスのカラーを設定します。各ボイスを個別に選択している時にその他のボイスがこのカラーに表示されます。

➤ 背景

楽譜の背景カラーを設定します。

➤ オシア譜

オシア譜の5線、音部記号などのカラーを設定します。

➤ 譜表

指定した譜表の5線、音部記号などのカラーを設定します。

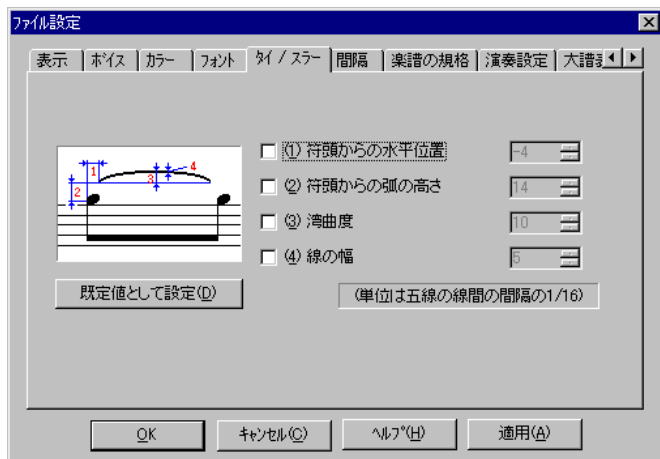
- **すべて**
この項目をチェックすると、リストにある項目をすべてチェックします。
- **カラー**
設定したい色を選択します。
- **フォント**
記号や歌詞、テキストなどのフォントを項目ごとに設定します。



- **歌詞**
歌詞のフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **コード**
コードネームのフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **譜表名**
譜表名のフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **小節番号**
小節番号のフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **文字反復記号**
文字反復記号のフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **エンディング**
エンディングのフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **速度記号**
速度記号のフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **空テキスト**
テキスト入力時のデフォルトフォント、サイズ、カラーを設定します。
- **「既定値として設定」**
すべてのフォントをデフォルトに設定します。

- **タイ/スラー**

タイ/スラーの形を編集します。



- **符頭からの水平位置**

符頭からの水平間隔を設定します。この値が+であれば符頭の右側、-であれば符頭の左側を意味します。

- **符頭からの弧の高さ**

符頭からの垂直間隔を設定します。この値が+であれば符頭の下側、-であれば符頭の上側を意味します。

- **湾曲度**

タイの曲り具合を設定します。この値はタイの中心位置からの偏差値です。

- **線の幅**

タイの中心の幅を設定します。

- **「既定値として設定」**

このボタンをクリックすると、デフォルト値に設定します。

- **間隔**

記号の間隔、音符との間隔、譜表やブロックの間隔などを設定します。設定する数値の単位は五線の線間隔の1/4です。



- **小節線と音部記号の間**
小節線と音部記号の間隔を設定します。
- **音部記号と調号の間**
音部記号と調号の間隔を設定します。
- **調号の間**
複数のシャープやフラットの間隔を設定します。
- **調号と拍子記号の間**
調号と拍子記号の間隔を設定します。
- **拍子記号と音符の間**
拍子記号と最初の音符の間隔を設定します。
- **臨時記号と音符の間**
臨時記号と音符の間隔を設定します。マウスで臨時記号をドラッグして位置を変えることもできます。
- **付点と音符の間**
付点と音符の間隔を設定します。マウスで付点をドラッグして位置を変えることもできます。
- **小節線と音符の間**
ブロックの始めの小節で小節線と音符の間隔を変更できます。
- **譜表の間**
ブロック内の譜表の間隔を設定します。
- **ブロックの間**
ページ内のブロックの間隔を設定します。
- **「既定値として設定」**
これをクリックすると、上の項目をデフォルト値に設定します。

● 楽譜の規格

楽譜のサイズ、余白、インデント、譜表サイズなどを設定します。



- **楽譜サイズ(幅)**
楽譜の水平幅を設定します。
- **楽譜サイズ(高さ)**
楽譜の垂直幅を設定します。
- **余白(左)**
楽譜の左側の余白を設定します。
- **余白(右)**
楽譜の右側の余白を設定します。
- **余白(上)**
楽譜の上側の余白を設定します。
- **余白(下)**
楽譜の下側の余白を設定します。
- **譜表サイズ**
五線の高さを設定します。
- **インデント(上)高さ**
楽譜の上側のインデントを設定します。
- **基本的な用紙サイズ**
既定サイズの楽譜を選択します。用紙を選択すると、そのサイズに合わせて「楽譜サイズ(幅)」と「楽譜サイズ(高さ)」項目の値が更新されます。

ファイルメニューの「印刷用紙サイズに合わせる」にチェックが入っている場合は設定できません。

実際に印刷する時、楽譜のサイズは次のようになります。

<「ファイル」メニューの「印刷用紙サイズに合わせる」にチェックがある場合>

- 楽譜は、設定した印刷用紙のサイズに拡大/縮小されます。

<「ファイル」メニューの「印刷用紙サイズに合わせる」にチェックがない場合>

- 楽譜サイズが設定した印刷用紙よりも大きければ、楽譜を複数の用紙に分けて印刷します。これを合わせると1枚の大きな楽譜になります。このようにしてプリンタの印刷用紙サイズより大きな規格の楽譜も印刷できます。

 テンプレートファイルに、これらの設定を保存できます。

● 演奏設定

音符、および譜面上に強弱記号やアーティキュレーション記号を付加した際のペロシティー、または演奏の長さを任意に設定できます。「ファイル設定」ダイアログボックスより「演奏設定」タブをクリックして表示します。



➤ 強弱記号演奏

この項目をチェックすると、これらの記号による演奏効果が有効になります。

➤ メトロノーム演奏

この項目をチェックすると、テンポ記号が演奏に反映されます。

➤ **強弱値**

各記号の強弱値を設定します。この項目には1から127までの値を設定できます。

➤ **アーティキュレーション演奏**

この項目をチェックすると、枠内に示された5種類の記号を使用した際の演奏効果が有効になります。

- **ベロシティーに〇〇を加える**

音符に対してこれら2種類の記号を付加した際、ここに入力された値ほど元の音の強さに加えます。

- **演奏の長さを〇〇%に設定**

音符に対してこれら3種類の記号を付加した際、ここに入力された値ほど発音する長さを調整します。

➤ **すべてリセット**

このボタンをクリックするとすべての値をリセットします。

 強弱値には1から127までの値を入力できます。

- **大譜表括弧**

大譜表括弧(ブレイス)の形を先端の外・内側、ボディの外・内側、括弧の横幅で設定します。



➤ **既定値として設定**

入力された値を初期状態に戻します。

録音時メトロノーム音出し

このコマンドをチェックすると、リアルタイム入力をする時にメトロノーム音を出します。



Music Score Pro2 では、リアルタイム入力時のカウントダウン小節数が、1小節に固定されています。レコーディングをスタートすると、メトロノームが1小節分鳴ります。

プレイバックフォロー

このコマンドをチェックすると、楽譜をプレイバックする際、その演奏位置に従ってカレットが移動します。

自動伴奏をする

このコマンドをチェックすると、楽譜をプレイバックする際、楽譜に入力したコードネームとリズムによって自動伴奏を行います。

リピート演奏

このコマンドをチェックすると、楽譜の演奏が繰り返されます。

連桁の自動連結

このコマンドをチェックすると、音符の入力時に自動的に連桁にします。

自動間隔調整

入力された音符をその音価によって自動的に小節内の適切な位置に配置します。このコマンドがチェックされていると、ひとつの小節内に拍数より多く音符を入力することができません。拍数より多い音符を入力する際にはこのチェックを解除してください。



拍数より多くの音符を入力した場合は、正常な演奏がされなくなります。

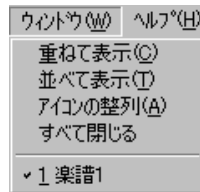
編集音を出す

このコマンドをチェックすると、音符を入力する際に音を出します。

エラーを表示する

このコマンドをチェックすると、音符が拍数より少ない、または多すぎる小節内の音符が赤色に表示されます。ただし弱記になっている小節は除外されます。これを使用して、編集時のエラーを防ぐことができます。

8. ウィンドウメニュー



重ねて表示

このコマンドをチェックすると、現在開いている複数の楽譜ファイルを重ねて表示します。

並べて表示

このコマンドをチェックすると、現在開いている複数の楽譜ファイルを上下に並べて表示します。

アイコンの整列

このコマンドをチェックすると、最小化された楽譜ウィンドウを画面下方に整列させます。

すべて閉じる

このコマンドを選択すると、開いている楽譜ファイルをすべて閉じます。

9. ヘルプメニュー

目次

このコマンドを選択すると製品のヘルプが表示されます。

このメニューを使用して特定のヘルプトピックを参照したり、「キーワード」タブを使ってヘルプを検索することができます。

MUSIC SCORE PRO2 について

この項目を選択すると、ユーザ名、更新日時、製品のバージョン情報が表示されます。

ホームページ

シルバースタージャパンの Web ページにアクセスします。

付記

ショートカットキー対応表

ファイルメニュー

新規作成	Ctrl+N
開く	Ctrl+O
上書き保存	Ctrl+S
イメージパラメータの設定	Ctrl+Alt+X
イメージとして保存	Ctrl+Alt+Z
印刷	Ctrl+P
終了	Alt+F4

編集メニュー

元に戻す	Ctrl+Z
やり直し	Ctrl+Y
切り取り	Ctrl+X
コピー	Ctrl+C
貼り付け	Ctrl+V
クリア	Del
ページ選択	Ctrl+A

表示メニュー

標準バー	Shift+F9
------	----------

入力ツールバー	Ctrl+F9	
音部記号	F3	
音符	F4	
アーティキュレーション	F5	
オーナメント	F6	
強弱記号	F7	
繰り返し記号	F8	
ツールボックス	F9	
タブ譜	F10	
図形	F11	
カラー	F12	
コードネームの選択	Ctrl+Alt+A	
リズムの選択	Ctrl+Alt+S	
書式バー	Ctrl+F10	
譜表設定	Shift+F6	
プレイコントロール	Ctrl+Shift+Enter	
描き直し	Ctrl+R	
ハンドル	Alt+C	
リズム	Alt+R	
拡大縮小	200%	Ctrl+Shift +2
	100%	Ctrl+Shift +1
	画面に合わせる	Ctrl+Shift +Z

音符メニュー

音符属性	Ctrl+I	
臨時記号	異名同音	Ctrl+E
符尾の向き	上へ	Ctrl+U
	下へ	Ctrl+D
ボイス移動	ボイス1～8へ	Ctrl+1～8
タイ	Ctrl+T	
スラー	Ctrl+L	
連桁	解除	Ctrl+Q
	グループ	Ctrl+G
	拍子通りに	Ctrl+B
	8分サブグループ	Ctrl+M
移調	Ctrl+Shift+P	
音価変更	Ctrl+Shift+D	
連符設定	Ctrl+Shift+L	
ベロシティー変更	Ctrl+Shift+V	
上の譜表に表示	Ctrl+Alt+U	
下の譜表に表示	Ctrl+Alt+D	
和音に変換	Ctrl+Alt+C	
装飾音に変換	短前打音に変換	Ctrl+Alt+G
	長前打音に変換	Shift+Alt+G
微調整	上へ	Ctrl+ ↑

	下へ	Ctrl+ ↓
	左へ	Ctrl+←
	右へ	Ctrl+→

小節メニュー

小節挿入	Ctrl+W
ブロックの小節数を増やす	Ctrl++
ブロックの小節数を減らす	Ctrl+-
拍子変更	Ctrl+F
調号変更	Ctrl+K
小節表示属性	Ctrl+Shift+M
スペーシング	Ctrl+J

楽譜メニュー

譜表挿入	Alt+D	
譜表属性	Ctrl+Shift+S	
譜表連結/解除	Alt+Q	
譜表を隠す	Ctrl+H	
譜表の表示	Ctrl+NumLock*	
ページ挿入	Alt+T	
楽譜ページレイアウト	譜表あたりの小節数	Ctrl+Shift+G
	ページあたりのブロック数	Ctrl+Shift+F
編成	譜表の既定間隔	Alt+Y
	ブロックの既定間隔	Alt+U

	ブロックをページの中心に置く	Alt+I
--	----------------	-------

設定メニュー

ファイル設定	Alt+L
プレイバックフォロー	Alt+K
自動伴奏をする	Alt+A
連桁の自動連結	Alt+B
自動間隔調整	Alt+J
編集音を出す	Alt+P

ヘルプ

目次	F1
Music Score Pro2 について	Alt+F1

マウスポインタ

選択	F2
消去	F2+Shift
入力	F2+Ctrl

演奏

始めから演奏	Ctrl+Space
演奏	Space
停止	Space

ウィンドウの切り替え	Ctrl+タブ
------------	---------

小節テキスト	Ctrl+Alt+Q
ページテキスト	Ctrl+Alt+W
歌詞	Ctrl+Alt+E
テンポ記号	Ctrl+Alt+R

キーボードとマウスを同時に利用した機能

- Ctrl キーを押しながら...

- ・音符をドラッグ →
音符をコピーできます。
- ・ブロックのハンドルをドラッグ →
それより下のブロックをまとめて移動できます。
- ・譜表のハンドルをドラッグ →
それより下のブロックで、同じ譜表をまとめて移動できます。
- ・小節線を移動する →
すべてブロックの小節線を同時に移動できます。
- ・選択範囲をドラッグ →
選択範囲をコピーします。
- ・歌詞ハンドルを上下にドラッグ →
すべて譜表の歌詞が同時に上下に移動できます。

これらの操作を実行するには
「選択ツール」を選んでください。

- Shift キーを押しながら範囲選択 →

複数の範囲を同時に選択できます。

- Alt キーを押しながら...

- ・記号(アルペジオ、強弱記号、テキスト、図形のみ)をドラッグ →
記号をコピーできます。

数字

8 分サブグループ	93
16 分サブグループ	94
32 分サブグループ	94

アルファベット

D.C	44
MIDI イベントを表示/非表示	90
MIDI イベント挿入」ダイアログ	46
MIDI ファイル読み込み/録音設定	121
MIDI 入出力ポート設定	120

あ

アーティキュレーション	39
アルペジオ	40

い

移調	95
移動ボタン	22
イメージとして保存	74
イメージパラメータの設定	73
印刷	87
印刷プレビュー	86
印刷用紙サイズに合せる	86

う

ウィンドウメニュー	133
上の譜表に表示	97
上書き保存	73

え

エラーを表示する	133
演奏ボタン	23
エンディング	42

お

オーナメント	40
オールノートオフ	23
オクターブ記号	45
オシア削除	117

オシア作成	116
音価変更	95
音程録音	64
音符	34
音部記号入力パレット	27
音符所属記号の削除	89
音符属性変更	91
音符入力パレット	34
音符のサイズ	92
音符メニュー	91
音符を微調整	99
音量	26

か

拡大ボタン	22
楽譜情報	85
楽譜のマージ	72
楽譜ページレイアウト	117
楽譜メニュー	109
歌詞	55
歌詞の編集ダイアログボックス	63
カスタムシンボルの選択ダイアログボックス	50
カスタムシンボルの編集	52
楽器設定	26
カラー入力パレット	53

き

休符	34
休符省略/解除	105
強弱記号	41

く

繰り返し記号	42
--------	----

こ

コードネームの選択	57
コードネームの編集ダイアログボックス	75
混合拍子	103
コントロールパネル	67

さ

最近使ったファイル	88
-----------	----

し

下の譜表に表示	97
自動間隔調整	132
自動伴奏をする	132
消去ボタン	22
小節削除	100
小節挿入	99
小節テキスト	54
小節幅の均等割付	119
小節番号	105
小節表示属性	107
小節メニュー	99
書式バー	66
新規作成	69

す

図形	49
ステータスバー	66
ステップ入力	38
スプリット・ノート	111
スペーシング	108
スラー	45

せ

設定メニュー	120
選択ボタン	22

そ

装飾音に変換	98
ソロ	25

た

タイ	45
タブ譜入力パレット	49

ち

チャンネル	25
調号変更	104

つ

ツールボックス入力パレット	45
---------------	----

て

停止	23
テンプレートから開く	71
テンポ設定ダイアログボックス	56
テンポ変更	107

と

閉じる	72
ドラムマップダイアログボックス	82
トランスポーズ	25
トレモロ 8 分	94
トレモロ 16 分	94
トレモロ 32 分	94
トレモロ 64 分	94

な

名前を付けて保存	73
----------	----

に

入力ツールバー	27
入力ボタン	22

は

パート譜作成	74
ハーフペダル記号	46
始めから演奏	23
発想標語の選択ウィンドウ	63

ひ

微調整	99
表示倍率	22
拍子変更	102
表示メニュー	90
標準ツールバー	22
開く	71

ふ

ファイル設定	122
ファイルの演奏設定	130
ファイルの楽譜規格設定	129
ファイルのカラー設定	125
ファイルの間隔設定	127

ファイルのタイ/スラー設定	127
ファイルの大譜表括弧設定	131
ファイルの表示設定	122
ファイルのフォント設定	126
ファイルのボイス設定	124
ファイル編集ボタン	22
ファイルメニュー	69
符尾の向き	92
譜表あたりの小節数	117
譜表削除	111
譜表設定	24
譜表挿入	109
譜表属性	113
譜表の既定間隔	119
譜表の表示	115
譜表連結/解除	114
譜表を隠す	115
プリンタの設定	86
フルペダル記号	46
プレイコントロール	23
プレイバックフォロー	132
フレットボードの編集ダイアログボックス	77
ブロックの既定間隔	119
ブロックの小節数を増やす	100
ブロックの小節数を減らす	101
ブロックを左のページラインに合わせる	119
へ	
ページあたりのブロック数	118
ページ削除	116
ページ挿入	115
ページテキスト	54
ページライン	90
ヘッダー/フッター編集	84
ヘルプメニュー	134
ベロシティー 変更	96
編集音を出す	132
編集メニュー	89
編成	119

ほ

ボイス移動	93
ボイス設定	67
ポインタボタン	22
補助ウィンドウボタン	23

め

メトロノーム音設定	122
メニューバー	69

ら

ライブラリーの編集	75
ラッチボタン	27

り

リアルタイム入力	38
リズムの選択	61
リズムパターンの作成ダイアログボックス	78
リズムパターン名を表示/非表示	90
リピート演奏	132
臨時記号	36, 92

れ

連桁の自動連結	132
連桁	93
連符	35
連符設定	96

ろ

録音	23
録音時メトロノーム音出し	132

わ

和音に変換	98
-------	----